

(公社) 日本スカッシュ協会定時社員総会報告

公益社団法人日本スカッシュ協会

2019年6月9日に大根田電機株式会社社会議室にて開催されました「公益社団法人日本スカッシュ協会 2019年度定時社員総会」におきまして、下記の議事が検討されましたのでご報告致します。

- 議事 :
- 1、平成30年度事業報告並びに財務諸表の承認の件  
⇒賛成多数により承認
  - 2、(公社)日本スカッシュ協会定款の一部変更(住所)の件  
⇒総社員数の2/3以上の賛成により承認

- 報告事項 :
- 1、平成30年度スカッシュ応援募金等活動報告
  - 2、2019年度事業計画並びに予算の報告
  - 3、2019年度正会員、名誉総裁、顧問、運営委員、大会・委員会担当者報告
  - 4、2019年東アジア選手権日本開催について  
日程：8月23日～25日  
会場：東京アメリカンクラブ
  - 5、2019年全日本スカッシュ選手権大会について  
日程：11月14日～17日  
会場：ヨコハマスカッシュスタジアムエスキューブと  
トレッサ横浜(4面ガラスコート設置)
  - 6、2021年ワールドマスターズ関西について  
スカッシュは京都市にて開催。2019年ワールドラグビー  
2020年東京五輪の「見るスポーツ」から2021年のWM  
G関西「やるスポーツ」へ。  
30歳から5歳きざみで参加できる大会。オープン、レク  
リエーション、チャレンジの3カテゴリで540名募  
集予定。募集要項等を6月中に固め、11月から1年以  
上かけて募集するので参加を呼びかけて欲しい。

# 平成 30 年度 事業報告

公益社団法人日本スカッシュ協会

## (1) スカッシュ競技の普及に関する事業

### ① スカッシュデー・スカッシュウィークの実施

主催：(公社) 日本スカッシュ協会

主管：全国のスポーツクラブ及び地区支部等

日程：<スカッシュデー>平成 31 年 2 月 11 日

<スカッシュウィーク>平成 31 年 2 月 2 日～17 日

会場：全国のスポーツクラブのスカッシュコート等

目的：スカッシュの楽しさをより多くの方々に体験して頂きスカッシュの一層の普及を目的とする。

対象：一般の方、どなたでも。

参加：19 施設 約 1,400 名 (今回で 19 回目となりトータル約 31,400 名の参加)

内容：スカッシュ体験会、試打会、ヒッティングパートナー、コーチング、レンタル無料デー、スカッシュ大会、3/4 ゲーム大会等

※エアースカッシュキャラバン開催予定の補助金対象 2 団体を募集 (後出)

◆次回は世界連盟のワールドスカッシュデーに合わせて、10 月 12 日をスカッシュデーとし、スカッシュウィークを 10 月 5 日～10 月 20 日とする予定

### ② 広報活動

イ) 広報機関誌<SQUASH>の発行 (年 2 回)

<平成 30 年度日本スポーツ振興くじ助成事業>

Vol. 83 (夏の号) 7 月 20 日発行

Vol. 84 (冬の号) 平成 31 年 2 月 25 日発行

ロ) 協会ホームページの運営

ハ) PRTIMES 他 SNS のプレスリリース等情報発信

### ③ 大会等のスポンサー対策及び年間協賛の増進

### ④ 環境対策委員会にて JSA エコプロジェクトを推進

引き続きスカッシュの大会等におけるゴミの分別等によるエコ活動及び環境ポスターの掲示を全国的に推進。

### ⑤ エアースカッシュを活用した全国キャラバンを実施

一昨年より全国で 4,000 名を超える参加者に体験して頂いたエアースカッシュイベントを引き続き継続して積極的に実施していく。

※30 年度開催予定の 2 団体に各 5 万円の補助金を出す為の募集を行った。

補助金進呈先：中国四国支部・横浜市スカッシュ協会

<エアースカッシュキャラバン>

・4 月 広島修道大学&セントラルスポーツ広島にて開催

・8/13～16 夏のトレッサ横浜

・9/15～9/16 京都市ワールドマスターズ関西 2021 PR イベント

・9/24 京都市体育協会「みんなのスポーツフェスタ」

- ・11/19・20 全日本のプレイベント in トレッサ横浜
- ・11/23 全日本イベント in トレッサ横浜
- ・1/1～3 お正月恒例！帝国ホテル

## **(2) スカッシュ競技の競技力の向上に関する事業**

### **① スカッシュの競技力向上に関する事業**

目的：国際大会でメダルが取れる選手の育成強化を目的とする。

対象：選手強化活動と新たなジュニア選手の発掘育成を対象とする。

内容：ナショナル強化プロジェクトチームによる JSA 強化指定選手の競技力向上と次世代選手の発掘育成強化。

### **② ナショナルスカッシュ強化練習会の開催**

#### **イ) ナショナルトレーニング**

会場：ヨコハマスカッシュスタジアム SQ-CUBE

◆日程：5月27日 参加人数：3名

◆日程：10月28日 参加人数：2名

#### **ロ) 2018 ジュニアサマーキャンプ**

日程：8月10日11日

会場：スカッシュマジックアカデミー

目的：ジュニアをターゲットにした選手強化と有望選手発掘

参加：強化指定候補選手8名、ジュニアスカウト対象選手10名

#### **ニ) 2018 J S A ジュニアゲーム練習会**

日程：12月23日

会場：スカッシュマジックアカデミー

参加：9名（協会会員7名・協会非会員2名）

#### **ホ) 2019 ジュニアウインターキャンプ**

日程：2019年1月12・13日

会場：スカッシュマジックアカデミー

参加：アジアジュニア団体戦代表選手 8名

強化指定候補選手：3名

ジュニアスカウト対象選手2名

#### **へ) 海外コーチ強化合宿 < J O C ・ N F 選手強化事業 >**

日程：平成31年3月5日～10日

会場：順天堂大学さくらキャンパススカッシュコート

コーチ：マークバーグ（オーストラリア）

参加：選手7名 スタッフ4名

#### **ト) ナショナル強化合宿・春 < J O C ・ N F 選手強化事業 >**

日程：平成31年3月29日～31日

会場：サンセットブリーズ保田

参加：17名

**③ JSA 公認レベルT（普及トレーナー）認定講習会と認定試験の開催**

日程：5月6日

会場：フィットネスハウスパレット中川

内容：スカッシュの底辺拡大を目指し、初心者レベルの愛好者を指導できる普及トレーナーを養成する為の講習会及び試験

受講者：4名（合格4名）

**④ （公社）日本スカッシュ協会コーチングワークショップ等の開催**

**イ) J S A コーチングワークショップ**

日程：6月10日

会場：スカッシュマジックアカデミー

内容：選手指導に必要な知識を得る事を目的とした内容

参加人数：7名

**ロ) 2018 J S A コーチングワークショップ in 東京 第2弾**

日程：12月14日

会場：コナミスポーツクラブ恵比寿

内容：今回のテーマは『スイングの動作の見直し』と『実戦的なムーブメント』。ボールを打つという基礎的なスキルと実戦的で効率的なムーブメントをテーマにレクチャー・ディスカッション・実践の流れで行った。

参加人数：8名（レベル1・T/2名、その他6名）

**⑤ J S A 公認審判講習会と認定試験の開催・支援と公認<2級・3級・4級>**

主催：（公社）日本スカッシュ協会及び全国の地区都道府県支部

日程：全国にて年10回

会場：全国のスポーツクラブのスカッシュコート又は地域公共施設

目的：レフリー・マーカの正しい知識を習得し、スカッシュ審判の一層の技術向上を目的とする。

対象：3級—スカッシュの競技歴が1年以上と認められる者等。

2級—スカッシュの競技歴が3年以上と認められる者等。

参加人数：別表参照

内容：講習会にて、正しいルールやレフリー・マーカのあり方、正しいジャッジ（判断）の進め方、トラブルの対処方法、観客や試合のコントロールについて学び、筆記試験と実技（DVD）試験の点数により認定の合否が決められる。

日程	会場	主催	受講者数	受験者数	受験結果				備考
					2級合格	3級合格	4級合格	追試	
5月27日	西宮大学交流センター	関西	4	8	1	5		2	
5月27日	セントラル ウエルネスクラブ札幌	北海道	6	6		2		3	
6月30日	杉並区 高井戸地域区民センター	J S A 東京都	36	19	1	3		8	
7月1日	広島修道大学	中国四国	8	8		3		2	
7月8日	宮城トヨタ自動車	東北	7	9		1		6	
11月11日	大宰府市立大宰府西中学校	九州	16	11	2	2		5	
2月3日	西宮大学交流センター	関西	20	15				12	
2月3日	杜のホールはしもと	神奈川	7	7		2		4	
2月17日	西宮大学交流センター	関西	37	42		3		19	
3月24日	ウエスタ川越	四県	23	17		2		4	
		計	164	142	1	23		65	

### (3) スカッシュ競技の競技大会に関する事業

#### ① 協会主催の競技大会

##### イ) 第29回全日本アンダー23 スカッシュ選手権大会

日程：6月2日・3日

会場：さいたまスカッシュスタジアム SQ-CUBE

目的：日本のトッププレイヤーを目指す若いプレイヤーの育成強化を目的とする。

対象：23歳未満の男女

参加人数：94名

主な大会結果：男子選手権 優勝 大段凛太郎  
準優勝 曾根直樹  
女子選手権 優勝 平野未悠  
準優勝 高橋くるみ

##### ロ) 第32回ジャパンジュニアオープンスカッシュ選手権大会

<ワールドジュニアサーキット(WSF) >

<アジアジュニアスーパーシリーズ(ASF) >

日程：7月25日～28日

会場：ヨコハマスカッシュスタジアム SQ-CUBE  
フィットネスハウスパレット中川

目的：海外のジュニア選手の参加により、日本の選手との交流と技術向上を目的とする。

対象：男女アンダー19、17、15、13、11、9の選手

参加人数：190名（10ヶ国）

主な大会結果：男子 U19 優勝 Sukjin KIM（韓国）  
準優勝 尾瀉祥汰（長府高等学校）  
女子 U19 優勝 佐野愛利紗（中部支部）  
準優勝 平野未悠（翔凜高校）

#### ハ) 第24回マスターズカーニバル

日程：10月6日7日

会場：ヨコハマスカッシュスタジアム SQ-CUBE

目的：マスターズ年代のスカッシュ愛好家による親睦を図り、スカッシュの試合を通じた楽しい仲間作りを目的とする。トリオマッチやプロ選手及び強化選手に挑戦するチャレンジマッチ、エキジビションマッチとを企画した。

また、3年後の「2021年関西ワールドマスターズゲームズ」を視野に入れ、現状のマスターズの勢いを衰えさせずに、2021年に臨める体制を整える。

対象：男女オーバー30、40、50、60、70、無差別、初心者

参加人数：約147名、トリオマッチ21組

#### ニ) 文部科学大臣杯争奪第47回全日本スカッシュ選手権大会

<平成30年度スポーツ振興基金助成>

日程：11月22日～25日

会場：ヨコハマスカッシュスタジアム SQ-CUBE

トレッサ横浜（4面ガラスコート設置）

後援：スポーツ庁、公益財団法人日本オリンピック委員会、  
特定非営利活動法人日本ワールドゲームズ協会、  
公益財団法人横浜市体育協会、tvk

目的：全国で開催された公認大会において上位の成績を収めた選手達により、日本チャンピオンの座を競う国内最高峰の大会。日本全国のトップ選手の交流と一層の技術向上を目的とする。又、4面ガラスコートの設置によりスカッシュの一層の知名度アップと普及を目指す。

対象：全国の公認大会における上位入賞者で、日本国籍を有する者、及び男女マスターズ

参加人数：231名

大会結果：男子優勝 机 龍之介（順天堂大学）<5連覇>

男子準優勝 遠藤 共竣（First Wave）

男子3位 鈴木 優希（メガロス草加）

男子3位 小林 僚生（First Wave）

女子優勝 渡邊 聡美（メッドサポートシステムズ）<2連覇>

女子準優勝 杉本 梨沙（順天堂大学大学院）

女子3位 酒井 真美（順天堂大学）

女子3位 松澤 彩香（Squash Life）

\*名誉総裁高円宮承子女王殿下ご臨席

ホ) **JOCジュニアオリンピックカップ第23回全日本ジュニアスカッシュ選手権大会** <平成30年度JOCジュニアオリンピック助成>

日程：平成31年3月26日～28日

会場：ヨコハマスカッシュスタジアム SQ-CUBE

目的：日本のジュニア選手で年代別ジュニアチャンピオンを競う大会であり、交流と技術向上を目的とする。

対象：男女アンダー19、17、15、13、11、9の選手で、日本国籍を有する者

参加人数：126名

大会結果：アンダー19男子優勝 安成翔太（ティップネス宮崎台）  
アンダー19男子準優勝 尾瀨祥次（長府高等学校）  
アンダー19女子優勝 佐野 H.B.愛利紗（中部支部）  
アンダー19女子準優勝 渡邊安佑未（八洲学園大学国際高等学校）

② 海外大会日本代表派遣

イ) **第13回東アジアスカッシュ選手権**<JOC・NF選手強化事業>

日程：6月21日～6月25日

開催地：韓国・大邱市

種目：男女混合団体戦

参加結果：日本 銅メダル獲得！（参加6ヶ国）

日本代表選手：遠藤共峻、林尚輝、鈴木優希、机龍之介、小林海咲、杉本梨沙

帯同コーチ：松本 淳

ロ) **第16回ペナンジュニアオープン**<JOC・NF選手強化事業>

日程：6月26日～7月1日

開催地：マレーシア

種目：男女アンダー19,17,15,13,11

派遣選手：松本航太、安成翔太、渡邊安佑未

主な参加結果：松本航太/U19、17位、安成翔太/U17、16位、  
渡邊安佑未/U17、14位

帯同コーチ：佐野公彦

ハ) **香港ジュニアオープン** <JOC・NF選手強化事業>

日程：7月29日～8月5日

開催地：香港

種目：男女アンダー19,17,15,13,11

派遣選手：松本航太、佐野 Herring Brooke 愛利紗、平野未悠、渡邊安佑未

主な参加結果：松本航太/U19、9位、佐野 Herring Brooke 愛利紗/U19、  
4位、平野未悠/U19、ベスト16、渡邊安佑未/U17、7位

帯同コーチ：佐野公彦、西村佳子、吉留慎吾

ニ) **第18回アジア競技大会**

日程：8月23日～26日（個人戦）

8月27日～9月1日（団体戦）

会場：ジャカルタ・パレンバン

派遣代表選手：

- ・個人戦 (男子) 机 龍之介、遠藤 共峻  
(女子) 渡邊 聡美、小林 海咲
- ・団体戦 (男子) 机 龍之介、遠藤 共峻、小林 僚生  
(女子) 渡邊 聡美、小林 海咲、杉本 梨沙

監督：潮木 仁、

トレーナー：神子 昭幸

大会 I T O：足立 美由紀

大会結果：女子団体戦 銅メダル (史上初！)

男子団体戦 5位タイ

#### ホ) 2018 女子世界団体選手権大会 (団体戦) < J O C ・ N F 選手強化事業 >

日程：9月9日～17日

開催地：中国・大連

種目：女子団体戦

派遣選手：小林海咲、渡邊聡美、杉本梨沙、渡邊安佑未

参加結果：女子団体戦 最終順位 11位/参加16ヶ国中

帯同コーチ：松本淳

#### へ) ユースオリンピック 2018

日程：10月6日～30日

開催地：ブエノスアイレス

スカッシュアンバサダー：日本代表佐野 Herring Brooke 愛利紗

※13歳から18歳のアスリートが競うユースオリンピックで、スカッシュ

競技がショーケース競技として、ガラスコートとインターアクティブスカッシュを使用したイベントを開催。

#### ト) 第19回アジアジュニア選手権 (団体戦) < J O C ・ N F 選手強化事業 >

日程：2019年1月16日～20日

開催地：タイ/パタヤ

種目：男女団体戦

参加結果：男子9位/参加12ヶ国中 女子7位/参加9ヶ国中

代表選手：男子/安成翔太、安藤雄太、鈴木拓道、永田龍之介

女子/渡邊安佑未、平野未悠、高橋楽歩、高橋くるみ

帯同コーチ：佐野公彦、吉留慎吾、神谷典子

#### チ) その他大会参加

マレーシアオープン (渡邊聡美/準優勝)

クインズランドオープン (遠藤共峻/優勝)

タイランドオープン (渡邊聡美/優勝)

ライオンシティジュニア (土岐幸誠 (/U13 準優勝)

KLジュニア (池田到真/U9、3位)

シンガポールジュニア

マカオジュニア (村上耀文/U15 準優勝、仮屋園瞬策U11 準優勝)

スコテッシュジュニア (緑川あかり/U15 準優勝、仮屋園瞬策U11 準優勝)

③ 国際大会の日本開催に向けての資金及び情報の収集

目的：国際大会の自国開催で、日本選手の技術向上と国際交流を目的に開催を準備中。又、国際レベルのプレーを生観戦できる機会により、メディアの露出を諮り、更に多くの人々のスカッシュへの認知度や関心を高める。

計画：2019年東アジアスカッシュ選手権開催に向けて会場や宿泊施設選択を準備中。

**(4) その他本会の目的を達成する為に必要な振興事業**

① アジア競技大会に向けてのロビー活動及び選手強化活動

目的：2018年のアジア競技大会では女子チームが史上初の銅メダル獲得し、男子も5位タイと好成績を果たした。次回に向けて選手強化を一層充実させたい。

又、2026年愛知・名古屋開催のアジア競技大会の為に愛知県スポーツ振興課に協力し、レガシーとなる会場作りを働きかけた。

対象：男女ナショナルチーム

種目：男女シングル戦、団体戦

結果：女子チーム銅メダル、男子チーム5位タイ

② オリンピックビド：スカッシュ競技採用の為に推進活動

目的：2024年のパリ五輪の正式競技採用を目指したが、組織委員会の候補には上がらなかった。

2020東京五輪のオリンピックムーブメントを最大限に利用し、実験的公開競技（スポーツ・ラボ）の実施を検討中。

内容：WSF（世界スカッシュ連盟）PSAに全面協力し、情報提供、情報発信など、スカッシュ業界を活発に演出する。その為にIOC（国際オリンピック委員会）並びに2020年東京オリンピック組織委員会へ実験的公開競技<スポーツ・ラボ>の実現を目指して働きかけをしていきたい。

③ ワールドマスターズゲームズ関西に向けての推進活動

内容：2021年に京都市にて開催されるワールドマスターズゲームズ関西でのスカッシュ競技に向けて中央競技団体として組織体制を見直し、準備を進めた。

④ ドーピング検査及びドーピング防止啓蒙活動

<平成30年スポーツ振興くじ助成事業>

内容：（公財）日本ドーピング機構に加盟して、競技会検査を30年11月の全日本選手権大会にて実施。また強化合宿等にてアンチドーピング啓蒙活動等の情報の発信を積極的に行った。

⑤ 会員募集事業と公認事業制度の運用

内容：\*個人会員登録及び協会公認・承認大会への参加は（株）アプロード運用の「スポーツエントリー」を利用して利便性を図った。但し、平成23年度より大会参加に関しての「スポーツエントリー」の利用は、主

催者の判断としている。

- \*世界スカッシュ連盟（WSF）の規格に基づいて、コート及びボールの公認を行いスカッシュ競技の安全性や統一を図った。
- \*ポイントが取得できる公認大会を統括（大会公認、要項、ドロー、結果の確認）し、ランキングを管理した。全日本選手権への参加資格取得を目指すなど、選手の競技活動の継続奨励と競技力向上を図った。
- \*平成26年度に導入したジュニアランキングを継続発行した。

⑥ 世界スカッシュ連盟、アジアスカッシュ連盟、東アジアスカッシュ連盟、各国協会、PSA(プロ協会)との相互協力、連携

目的：海外の情報を収集し、国内へ発信。また、海外と友好関係と協力体制を維持し、競技力、団体運営の充実に結び付く積極的な活動を行った。

⑦ 全日本学生連盟との連携、強化

目的：引き続き学生連盟の所属選手も個人登録とし、協会機関誌を個別に発送する事により情報を一層密に伝達した。又、学連運営についての意見交換し、今後のスムーズな協力体制について話し合っている。

⑧ 「(公社)日本スカッシュ協会ナショナルトレーニングセンター(仮称)」建設に向けた資金及び情報の収集

目的：協会所有のスカッシュコートがあれば、選手強化が無駄なく継続できる。また、十分なコート数を保有することで、国際大会を開催出来、国際連盟との協調を増進させ、より自国の競技の発展につなげる事ができる。国や自治体の協力を得て「(公社)日本スカッシュ協会ナショナルトレーニングセンター(仮称)」の建設を目指し、資金と情報収集して準備中。

- 計画：1、今後建設予定の各種施設へのスカッシュコート設置を積極的に働きかけた。
- 2 自治体、学校、企業に働きかけ、スカッシュコート建設につなげる努力をした。

⑨ 日本スポーツ協会加盟に向けての活動

目的：一層のスカッシュ普及の為、全国各支部体制を強化して各都道府県及び市の日本スポーツ協会への加盟実現に向けて準備をした。

⑩ コンプライアンスの強化

目的：(公社)日本スカッシュ協会倫理規程を見直し、細則追加等により、スポーツにおけるインテグリティの充実、及びドーピング防止活動を継続、推進する。最新の関連情報の提供と注意喚起を徹底した。

⑪ 公益法人としての活動の強化

目的：公益社団法人としての適正な活動を行い、スカッシュの一層の全国普及振興に努力した。

## 平成 30 年度会員数 & 公認数

### ＜個人会員＞

()は前年

会員種別	人数
正会員	33 名(33 名)
プロ選手会員	29 名(34 名)
プレミアムパートナー 会員(個人)	6 名
個人選手会員	610 名(646 名)
ジュニア会員	184 名(188 名)
一般会員	146 名(200 名)
レフリー・コーチ会員	19 名(19 名)
個人後援会員	0 名(2 名)
学連会員	828 名(889 名)

個人会員総計名     1,849 (2,011 名)

### ＜団体会員＞

()は前年

会員種別	団体数
プレミアムパートナー 会員(団体)	7<48 口>
団体会員	97(103)
準団体会員	23(25)
クラブチーム会員	23(20)

### ＜個人会員と一般会員の支部別内訳＞()は前年

支部名	個人選手会員	一般会員
北海道	32(36)	12(12)
東北	46(53)	10(13)
関東	328(333)	76(104)
中部	51(49)	18(19)
関西	72(81)	14(33)
中国四国	43(51)	10(14)
九州	38(43)	6(5)

### ＜平成 30 年度公認件数＞

コート公認数	0 件
大会公認数(協会主催大会を除く)	51 大会 (オープン 34、U23 2、 U21 0、ジュニア 0、 地区支部クローズ 7、 県支部クローズ 5、学連 3)
ボール公認数	1 件
コーチ公認更新数	31 件
レフリー公認更新数	65 件

(2019.3.31.)

# 貸借対照表

平成31年 3月31日現在

(単位:円)

科 目	当年度	前年度	増 減
<b>I 資産の部</b>			
1. 流動資産			
現金預金	18,702,247	24,677,553	△ 5,975,306
棚卸資産	49,249	38,255	10,994
前払金	1,328,767	5,662,211	△ 4,333,444
未収金	10,699,260	9,405,894	1,293,366
流動資産合計	30,779,523	39,783,913	△ 9,004,390
2. 固定資産			
(1) 基本財産			
定期預金	15,432,092	15,432,092	0
基本財産合計	15,432,092	15,432,092	0
(2) 特定資産			
公益事業基金(大会開催)引当預金	7,200,000	7,100,000	100,000
トレンセン建設引当預金	5,100,000	4,900,000	200,000
スポーツラボ引当預金	4,000,000	4,000,000	0
国際大会開催引当預金	2,400,000	2,400,000	0
新事務所保証金引当預金	2,400,000	2,400,000	0
退職給付引当預金	500,000	400,000	100,000
特定資産合計	21,600,000	21,200,000	400,000
(3) その他固定資産			
什器備品	6,000,000	0	6,000,000
保証金	200,000	200,000	0
その他固定資産合計	6,200,000	200,000	6,000,000
固定資産合計	43,232,092	36,832,092	6,400,000
資産合計	74,011,615	76,616,005	△ 2,604,390
<b>II 負債の部</b>			
1. 流動負債			
未払金	2,061,294	1,869,555	191,739
前受金	5,799,200	4,801,200	998,000
預り金	880,000	1,387,000	△ 507,000
流動負債合計	8,740,494	8,057,755	682,739
2. 固定負債			
退職給付引当金	500,000	400,000	100,000
固定負債合計	500,000	400,000	100,000
負債合計	9,240,494	8,457,755	782,739
<b>III 正味財産の部</b>			
1. 指定正味財産			
指定正味財産合計	0	0	0
2. 一般正味財産			
(うち基本財産への充当額)	( 15,432,092)	( 15,432,092)	( 0)
(うち特定資産への充当額)	( 21,100,000)	( 20,800,000)	( 300,000)
正味財産合計	64,771,121	68,158,250	△ 3,387,129
負債及び正味財産合計	74,011,615	76,616,005	△ 2,604,390

# 正味財産増減計算書

平成30年 4月 1日から平成31年 3月31日まで

(単位:円)

科 目	当年度	前年度	増 減
I 一般正味財産増減の部			
1. 経常増減の部			
(1) 経常収益			
基本財産運用益	[ 3,377]	[ 3,977]	[△ 600]
基本財産受取利息	3,377	3,977	△ 600
受取会費	[ 20,266,800]	[ 16,314,240]	[ 3,952,560]
正会員受取会費	356,400	356,400	0
賛助会員個人受取会費	9,075,000	9,310,240	△ 235,240
賛助会員団体受取会費	7,824,000	3,488,400	4,335,600
加盟金	610,000	610,000	0
公認料	2,401,400	2,549,200	△ 147,800
事業収益	[ 18,428,281]	[ 17,810,598]	[ 617,683]
補助金・委託金等収入	4,848,000	4,135,000	713,000
協賛金収入	1,166,400	2,372,400	△ 1,206,000
入場料収入	0	549,700	△ 549,700
参加料収入	9,547,553	9,447,099	100,454
その他の収入	2,866,328	1,306,399	1,559,929
受取補助金等	[ 14,500,000]	[ 12,240,000]	[ 2,260,000]
民間補助金収入	7,071,000	6,354,000	717,000
国庫等助成金	7,429,000	5,886,000	1,543,000
受取寄付金	[ 2,795,180]	[ 763,000]	[ 2,032,180]
受取寄付金	2,600,000	324,000	2,276,000
募金収益	195,180	439,000	△ 243,820
雑収益	[ 3,441]	[ 21,598]	[△ 18,157]
受取の利息	254	21,598	△ 21,344
その他	3,187	0	3,187
経常収益計	55,997,079	47,153,413	8,843,666
(2) 経常費用			
事業費	[ 43,219,940]	[ 26,769,577]	[ 16,450,363]
コトフイツト	2,503,575	2,506,358	△ 2,783
パンフレット	668,709	795,706	△ 126,997
参加賞	502,135	451,360	50,775
トロフィ・メダル	195,513	260,485	△ 64,972
保険代	32,496	18,528	13,968
交通費	52,850	228,903	△ 176,053
宿泊費	774,568	313,515	461,053
郵送費	309,933	460,543	△ 150,610
雑費	2,053,102	1,908,227	144,875
諸謝金	2,005,365	1,983,715	21,650
旅費	779,147	1,586,677	△ 807,530
渡航費	2,570,179	2,605,064	△ 34,885
滞在費	2,923,460	2,089,980	833,480
借料及び損料	1,783,437	706,225	1,077,212
消耗品費	71,692	1,561	70,131
スポーツ用品費	330,480	314,145	16,335
印刷製本費	3,064,992	1,493,519	1,571,473
通信用搬費	911,753	183,600	728,153
会議費	0	91,432	△ 91,432
雑務費	6,657,635	3,885,676	2,771,959
保険料	75,520	145,970	△ 70,450
その他	8,689,919	222,934	8,466,985
対象外経費	4,545,957	3,756,454	789,503

科 目	当年度	前年度	増 減
減価償却費	1,065,023	0	1,065,023
給付金支出	652,500	759,000	△ 106,500
管 理 費	[ 16,164,268]	[ 15,536,413]	[ 627,855]
給付金	10,326,475	9,817,839	508,636
旅費交通費	789,720	714,682	75,038
通信運搬費	185,614	429,578	△ 243,964
会議費	0	4,320	△ 4,320
消耗什器備品費	317,707	370,268	△ 52,561
印刷製本費	42,727	7,662	35,065
光熱水料費	244,855	237,009	7,846
賃借料	1,465,400	1,320,000	145,400
社会保険料	1,578,514	1,625,703	△ 47,189
負担金支出	665,424	462,149	203,275
公認会計士他費用	150,000	150,000	0
公益法人関連費用	265,890	284,868	△ 18,978
登記費	96,600	96,040	560
雑費	35,342	16,295	19,047
経常費用計	59,384,208	42,305,990	17,078,218
評価損益等調整前当期経常増減額	△ 3,387,129	4,847,423	△ 8,234,552
評価損益等計	0	0	0
当期経常増減額	△ 3,387,129	4,847,423	△ 8,234,552
2. 経常外増減の部			
(1) 経常外収益			
経常外収益計	0	0	0
(2) 経常外費用			
経常外費用計	0	0	0
当期経常外増減額	0	0	0
当期一般正味財産増減額	△ 3,387,129	4,847,423	△ 8,234,552
一般正味財産期首残高	68,158,250	63,310,827	4,847,423
一般正味財産期末残高	64,771,121	68,158,250	△ 3,387,129
II 指定正味財産増減の部			
当期指定正味財産増減額	0	0	0
指定正味財産期首残高	0	0	0
指定正味財産期末残高	0	0	0
III 正味財産期末残高	64,771,121	68,158,250	△ 3,387,129

**正味財産増減計算書内訳表**  
平成30年 4月 1日から平成31年 3月31日まで

(単位：円)

科 目				合 計
	公益目的事業	収益事業	法人会計	
I 一般正味財産増減の部				
1. 経常増減の部				
(1) 経常収益				
基本財産運用益	[ 0 ]	[ 0 ]	[ 3,377 ]	[ 3,377 ]
基本財産受取利息	0	0	3,377	3,377
受取会費	[ 10,133,400 ]	[ 0 ]	[ 10,133,400 ]	[ 20,266,800 ]
正会員受取会費	178,200	0	178,200	356,400
賛助会員個人受取会費	4,537,500	0	4,537,500	9,075,000
賛助会員団体受取会費	3,912,000	0	3,912,000	7,824,000
加盟金	305,000	0	305,000	610,000
公認料	1,200,700	0	1,200,700	2,401,400
事業収益	[ 18,428,281 ]	[ 0 ]	[ 0 ]	[ 18,428,281 ]
補助金・委託金等収入	4,848,000	0	0	4,848,000
協賛金収入	1,166,400	0	0	1,166,400
参加料収入	9,547,553	0	0	9,547,553
その他の収入	2,866,328	0	0	2,866,328
受取補助金等	[ 14,500,000 ]	[ 0 ]	[ 0 ]	[ 14,500,000 ]
民間補助金収入	7,071,000	0	0	7,071,000
国庫等助成金	7,429,000	0	0	7,429,000
受取寄付金	[ 2,795,180 ]	[ 0 ]	[ 0 ]	[ 2,795,180 ]
受取寄付金	2,600,000	0	0	2,600,000
募金収益	195,180	0	0	195,180
雑収	[ 0 ]	[ 0 ]	[ 3,441 ]	[ 3,441 ]
受取の利息	0	0	254	254
その他	0	0	3,187	3,187
経常収益計	45,856,861	0	10,140,218	55,997,079
(2) 経常費用				
事業費	[ 43,219,940 ]	[ 0 ]	[ 0 ]	[ 43,219,940 ]
コート・フット	2,503,575	0	0	2,503,575
パンフレット	668,709	0	0	668,709
参加賞	502,135	0	0	502,135
トロフィー・メダル	195,513	0	0	195,513
保険代	32,496	0	0	32,496
交通費	52,850	0	0	52,850
宿泊費	774,568	0	0	774,568
郵送費	309,933	0	0	309,933
雑費	2,053,102	0	0	2,053,102
諸謝金	2,005,365	0	0	2,005,365
旅費	779,147	0	0	779,147
渡航費	2,570,179	0	0	2,570,179
滞在費	2,923,460	0	0	2,923,460
借料及び損料	1,783,437	0	0	1,783,437
消耗品費	71,692	0	0	71,692
スポーツ用品費	330,480	0	0	330,480
印刷製本費	3,064,992	0	0	3,064,992
通信運搬費	911,753	0	0	911,753
雑役務費	6,657,635	0	0	6,657,635
保険料	75,520	0	0	75,520
その他	8,689,919	0	0	8,689,919
対象外経費	4,545,957	0	0	4,545,957
減価償却費	1,065,023	0	0	1,065,023
給付金支出	652,500	0	0	652,500
管理費	[ 11,960,814 ]	[ 0 ]	[ 4,203,454 ]	[ 16,164,268 ]
給与	8,261,180	0	2,065,295	10,326,475
旅費	631,776	0	157,944	789,720
通信・運搬費	148,494	0	37,120	185,614
消耗什器備品費	254,166	0	63,541	317,707
印刷製本費	34,182	0	8,545	42,727
光熱水料費	195,884	0	48,971	244,855
賃借料	1,172,320	0	293,080	1,465,400
社保料	1,262,812	0	315,702	1,578,514
負担金支出	0	0	665,424	665,424

科 目				合 計
	公益目的事業	収益事業	法人会計	
公 認 会 計 士 他 費 用	0	0	150,000	150,000
公 益 法 人 関 連 費 用	0	0	265,890	265,890
登 記 費 用 費	0	0	96,600	96,600
雑 費	0	0	35,342	35,342
経常費用計	55,180,754	0	4,203,454	59,384,208
評価損益等調整前当期経常増減額	△ 9,323,893	0	5,936,764	△ 3,387,129
評価損益等計	0	0	0	0
当期経常増減額	△ 9,323,893	0	5,936,764	△ 3,387,129
2. 経常外増減の部				
(1) 経常外収益				
経常外収益計	0	0	0	0
(2) 経常外費用				
経常外費用計	0	0	0	0
当期経常外増減額	0	0	0	0
当期一般正味財産増減額	△ 9,323,893	0	5,936,764	△ 3,387,129
一般正味財産期首残高	△ 631,083	0	68,789,333	68,158,250
一般正味財産期末残高	△ 9,954,976	0	74,726,097	64,771,121
II 指定正味財産増減の部				
当期指定正味財産増減額	0	0	0	0
指定正味財産期首残高	0	0	0	0
指定正味財産期末残高	0	0	0	0
III 正味財産期末残高	△ 9,954,976	0	74,726,097	64,771,121

## 附属明細書

### 1. 基本財産及び特定資産の明細

「財務諸表に対する注記」の「2.基本財産及び特定資産の増減額及び残高」に記載のとおりである。

### 2. 引当金の明細

(単位:円)

科 目	期首残高	当期増加額	当期減少額		当期末残高
			目的使用	その他	
退職給付引当金	400,000	100,000	-	-	500,000



## 4. 固定資産の取得価額、減価償却累計額及び当期末残高

(単位:円)

科目	取得価額	減価償却累計額	当期末残高
什器備品	7,065,023	1,065,023	6,000,000

## 5. 補助金等の内訳並びに交付者、当期の増減額及び残高

(単位:円)

補助金等の名称	交付者	前期末残高	当期増加額	当期減少額	当期末残高	貸借対照表上の記載区分
委託金						
選手強化NF事業補助金	日本オリンピック委員会	0	4,848,000	4,848,000	0	—
小計		0	4,848,000	4,848,000	0	
補助金						
選手強化交付金	日本オリンピック委員会	0	6,071,000	6,071,000	0	—
ジュニア育成助成金	ミズノスポーツ振興財団	0	1,000,000	1,000,000	0	—
小計		0	7,071,000	7,071,000	0	
助成金						
スポーツ振興基金助成金	日本スポーツ振興センター	0	5,782,000	5,782,000	0	—
スポーツ振興くじ助成金	日本スポーツ振興センター	0	1,647,000	1,647,000	0	—
小計		0	7,429,000	7,429,000	0	
合計		0	19,348,000	19,348,000	0	

# 財産目録

平成31年 3月31日現在

(単位:円)

貸借対照表科目	場所・物量等	使用目的等	金額
<b>(流動資産)</b>			
現金	手元保管	運転資金として	37,741
	預金		
	普通預金	普通預金合計	9,298,715
	三菱UFJ銀行 神田支店	運転資金として	270,422
	三菱UFJ銀行 神田駅前支店	運転資金として	3,381
	三井住友銀行 神田支店	運転資金として	300,605
	みずほ銀行 神田支店	運転資金として	2,127,679
	りそな銀行 神田支店	運転資金として	280,686
	SMBC信託銀行 大手町支店	運転資金として	3,533,667
	SMBC信託銀行 大手町支店	運転資金として (外貨)	424,404
	朝日信用金庫 湯島支店	運転資金として	1,266,458
	ゆうちょ銀行 神田局	運転資金として	1,091,413
	定期預金	定期預金合計	9,365,791
	三井住友銀行 神田支店	運転資金として	115,464
	みずほ銀行 神田支店	運転資金として	9,115,464
	りそな銀行 神田支店	運転資金として	102,531
	SMBC信託銀行 大手町支店	運転資金として	22,206
	三菱UFJ銀行 神田支店	運転資金として	10,126
棚卸資産	手元保管	公益目的事業分 (本・ビデオ) 及び 法人会計分 (切手) として	49,249
前払金			1,328,767
翌年度事業分	参加費等	公益目的事業分として	1,328,767
未収金			10,699,260
その他	JOC補助金・会費等	公益目的事業分として	10,699,260
<b>流動資産合計</b>			<b>30,779,523</b>
<b>(固定資産)</b>			
<b>基本財産</b>			
	定期預金	定期預金合計	15,432,092
	三菱UFJ銀行 神田支店	公益目的事業の不可欠特定財産として 運用益を管理費の財源に充当	5,102,860
	りそな銀行 神田支店	公益目的事業の不可欠特定財産として 運用益を管理費の財源に充当	8,309,208
	SMBC信託銀行 大手町支店	公益目的事業の不可欠特定財産として 運用益を管理費の財源に充当	2,020,024
<b>特定資産</b>			
	公益事業基金 (大会開催) 引当預金	公益事業基金 (大会開催) 引当預金合計	7,200,000
	三菱UFJ銀行 神田駅前支店	特定費用準備資金として	2,100,000
	三井住友銀行 神田支店	特定費用準備資金として	3,400,000

貸借対照表科目		場所・物量等	使用目的等	金額
その他固定資産	トレセン建設 引当預金	ゆうちょ銀行 神田局	特定費用準備資金として	1,700,000
			トレセン建設引当預金合計	5,100,000
	スポーツラボ引当預 金	三菱UFJ銀行 神田駅前支店	公益目的事業分として	1,500,000
		三井住友銀行 神田支店	公益目的事業分として	3,600,000
			スポーツラボ引当預金合計	4,000,000
	国際大会開催引当預 金	三菱UFJ銀行 神田支店	公益目的事業分として	3,200,000
		三井住友銀行 神田支店	公益目的事業分として	800,000
			国際大会開催引当預金合計	2,400,000
	新事務所保証金引当 預金	三菱UFJ銀行 神田支店	公益目的事業分として	1,200,000
		三井住友銀行 神田支店	公益目的事業分として	1,200,000
		新事務所保証金引当預金合計	2,400,000	
退職給付引当預金	三菱UFJ銀行 神田支店	法人会計・管理費分として	2,400,000	
			退職給付引当預金合計	500,000
	三菱UFJ銀行 神田支店	法人会計・管理費分として	500,000	
什器備品 保証金	4面ガラスコート 事務所保証金	公益目的事業分として	6,000,000	
		公益目的保有財産として(20%) 公益目的事業の不可欠特定財産として(80%)	200,000	
固定資産合計				43,232,092
資産合計				74,011,615
(流動負債)	未払金		未払金合計	2,061,294
	前受金	3月分給料	法人会計・管理費分として	679,299
		大会経費	公益目的事業分として	284,161
		その他	法人会計・管理費分として	1,097,834
			前受金合計	5,799,200
	預り金	次年度会費	公益目的事業分として	5,637,200
		その他	公益目的事業分として	162,000
		賞金	公益目的事業分として	880,000
				880,000
流動負債合計				8,740,494
(固定負債)	退職給付引当金		法人会計・管理費分として	500,000
固定負債合計				500,000
負債合計				9,240,494
正味財産				64,771,121

## 独立監査人の監査報告書


令和元年5月7日

公益社団法人日本スカッシュ協会

会長 笠原 一也 殿

十川公認会計士事務所

公認会計士

十川 稔 

### <財務諸表監査>

私は、貴社団法人の委嘱に基づき、公益社団法人日本スカッシュ協会の平成30年4月1日から平成31年3月31日までの平成30年度の貸借対照表及び正味財産増減計算書並びに附属明細書並びに財務諸表に対する注記について監査し、併せて、正味財産増減計算書内訳表（以下「財務諸表等」という。）について監査を行った。

### 財務諸表等に対する理事者の責任

理事者の責任は、我が国において一般に公正妥当と認められる公益法人会計の基準に準拠して財務諸表等を作成し適正に表示することにある。これは、不正又は誤謬による重要な虚偽表示のない財務諸表等を作成し適正に表示するために理事者が必要と判断した内部統制を整備及び運用することが含まれる。

### 監査人の責任

私の責任は、私が実施した監査に基づいて、独立の立場から財務諸表等に対する意見を表明することにある。私は、我が国において一般に公正妥当と認められる監査の基準に準拠して監査を行った。監査の基準は、私に財務諸表等に重要な虚偽の表示がないかどうかについて合理的な保証を得るために、監査計画を策定し、これに基づき監査することを求めている。

監査においては、財務諸表等の金額及び開示について監査証拠を入手するための手続が実施される。監査手続は、私の判断により、不正又は誤謬による財務諸表等の重要な虚偽表示のリスクの評価に基づいて選択及び適用される。財務諸表監査の目的は、内部統制の有効性について意見表明するためのものではないが、私は、リスク評価の実施に際して、状況に応じた適切な監査手続を立案するために、財務諸表等の作成と適正な表示に関連する内部統制を検討する。また、監査には、理事者が採用した会計方針及びその適用方法並びに理事者によって行われた見積りの評価も含め全体としての財務諸表等の表示を検討することが含まれる。

私は、意見表明の基礎となる十分かつ適切な監査証拠を入手したと判断している。

### 監査意見

私は、上記の財務諸表等が、我が国において一般に公正妥当と認められる公益法人会計の基準に準拠して、当該財務諸表等に係る期間の財産、正味財産増減の状況をすべての重要な点において適正に表示しているものと認める。

### <財産目録に対する意見>

私は、貴社団法人の委嘱に基づき、公益社団法人日本スカッシュ協会の平成31年3月31日現在の平成30年度の財産目録（「貸借対照表科目」、「使用目的等」及び「金額」の欄に限る）について監査を行った。

### 財産目録に対する理事者の責任

理事者の責任は、財産目録を、我が国において一般に公正妥当と認められる公益法人会計の基準に準拠するとともに、公益認定関係書類と整合して作成することにある。

### 監査人の責任

私の責任は、財産目録が、我が国において一般に公正妥当と認められる公益法人会計の基準に準拠しており、公益認定関係書類と整合して作成されているかについて意見を表明することにある。

### 財産目録に対する監査意見

私は、上記の財産目録が、我が国において一般に公正妥当と認められる公益法人会計の基準に準拠しており、公益認定関係書類と整合して作成されているものと認める。

### 利害関係

公益社団法人日本スカッシュ協会と私との間には、公認会計士法の規定により記載すべき利害関係はない。

以上

# 監査報告書

2019年5月7日

公益社団法人日本スカッシュ協会  
会長 笠原 一也 殿

公益社団法人 日本スカッシュ協会

監事 友清 敏尔   
監事 山岸 和彦 

私たち監事は、公益社団法人日本スカッシュ協会の平成30年4月1日から平成31年3月31日までの事業年度の理事の職務の執行を監査いたしました。その結果を次のとおり報告いたします。

## 1. 監査方法及びその内容

- (1) 理事の職務並びに事業報告及びその附属明細書の監査については、理事会に出席し、理事から業務の報告を聴取し、関係書類の閲覧その他必要と思われる監査手続きを実施して、理事の職務の遂行並びに事業報告及びその附属明細書の妥当性を検討しました。
- (2) 財務諸表及びその附属明細書並びに財産目録の監査については、独立監査人から監査実施状況及び結果について報告を受け、財務諸表及びその附属明細書並びに財産目録を検討しました。

## 2. 監査意見

- (1) 事業報告及びその附属明細書に関する監査結果  
事業報告及び附属明細書は、法令又は定款に従い当法人の状況を正しく示していると認めます。
- (2) 理事の職務の遂行に関する監査結果  
当法人の理事の職務の遂行に関し、不正の行為又は法令若しくは定款に違反する重大な事実は認められません。
- (3) 財務諸表及びその附属明細書並びに財産目録に関する監査結果  
財務諸表及びその附属明細書並びに財産目録は当法人の財産及び損益の状況をすべての重要な点において適正に表示していると認めます。また、独立監査人の監査方法及び結果は、相当であると認めます。

以上

# 収支計算書

平成30年 4月 1日から平成31年 3月31日まで

(単位:円)

科 目	予算額	決算額	差 異
I 事業活動収支の部			
1. 事業活動収入			
基本財産運用収入	[ 10,000]	[ 3,377]	[ 6,623]
基本財産利息収入	10,000	3,377	6,623
会費収入	[ 17,529,250]	[ 20,266,800]	[△ 2,737,550]
正会員会費収入	356,400	356,400	0
賛助会員個人会費	10,262,850	9,075,000	1,187,850
賛助会員団体会費	3,600,000	7,824,000	△ 4,224,000
加盟金	610,000	610,000	0
公認料	2,700,000	2,401,400	298,600
事業収入	[ 14,188,531]	[ 18,428,281]	[△ 4,239,750]
補助金・委託金等収入	2,300,000	4,848,000	△ 2,548,000
協賛金収入	4,301,031	1,166,400	3,134,631
入場料収入	500,000	0	500,000
参加料収入	6,275,500	9,547,553	△ 3,272,053
その他の収入	312,000	2,866,328	△ 2,554,328
雑収入	500,000	0	500,000
補助金等収入	[ 12,441,000]	[ 14,500,000]	[△ 2,059,000]
民間補助金収入	4,500,000	7,071,000	△ 2,571,000
国庫等助成金	7,941,000	7,429,000	512,000
寄付金収入	[ 600,000]	[ 2,795,180]	[△ 2,195,180]
寄付金収入	0	2,600,000	△ 2,600,000
募金収入	600,000	195,180	404,820
雑収入	[ 1,000]	[ 3,441]	[△ 2,441]
受取利息	1,000	254	746
その他	0	3,187	△ 3,187
事業活動収入計	44,769,781	55,997,079	△ 11,227,298
2. 事業活動支出			
事業費	[ 27,577,781]	[ 42,165,911]	[△ 14,588,130]
コート・フット	2,238,660	2,503,575	△ 264,915
パンフレット	357,700	668,709	△ 311,009
参加賞	471,200	502,135	△ 30,935
トロフィー・メダル	309,588	195,513	114,075
保険代	26,372	32,496	△ 6,124
交通費	587,100	52,850	534,250
宿泊費	107,000	774,568	△ 667,568
郵送費	182,000	319,427	△ 137,427
雑費	585,161	2,054,602	△ 1,469,441
諸謝金	2,472,100	2,005,365	466,735
旅費	1,069,100	779,147	289,953
渡滞航費	2,261,840	2,570,179	△ 308,339
滞在費	2,275,842	2,923,460	△ 647,618
借料及び損料	1,297,051	1,783,437	△ 486,386
消耗品費	423,641	71,692	351,949
スポーツ用品費	295,245	330,480	△ 35,235
備用品費	250,000	0	250,000
印刷製本費	2,944,111	3,064,992	△ 120,881
通信運搬費	113,858	911,753	△ 797,895
雑務費	7,244,359	6,657,635	586,724
保険料	55,310	75,520	△ 20,210
その他	15,543	8,689,919	△ 8,674,376
対象外経費	795,000	4,545,957	△ 3,750,957

科 目	予算額	決算額	差 異
給 付 金 支 出	900,000	652,500	247,500
雑 支 出	300,000	0	300,000
管 理 費	[ 16,792,000]	[ 16,064,268]	[ 727,732]
給 旅 通 会 消 耗 什 器 備 品 費 用	10,202,000	10,226,475	△ 24,475
交 通 費	800,000	789,720	10,280
信 運 搬 費	330,000	185,614	144,386
議 費	10,000	0	10,000
印 刷 製 本 費	50,000	42,727	7,273
光 熱 水 料 費	250,000	244,855	5,145
賃 借 料	1,500,000	1,465,400	34,600
社 会 保 險 料	2,000,000	1,578,514	421,486
負 担 金 支 出	500,000	665,424	△ 165,424
公 認 会 計 士 他 費 用	150,000	150,000	0
公 益 法 人 関 連 費 用	250,000	265,890	△ 15,890
登 記 費 用	150,000	96,600	53,400
雑 費	100,000	35,342	64,658
事業活動支出計	44,369,781	58,230,179	△ 13,860,398
事業活動収支差額	400,000	△ 2,233,100	2,633,100
II 投資活動収支の部			
1. 投資活動収入			
投資活動収入計	0	0	0
2. 投資活動支出			
特 定 預 金 支 出	[ 400,000]	[ 400,000]	[ 0]
退 職 給 付 引 当 預 金 支 出	100,000	100,000	0
大 会 開 催 引 当 預 金 支 出	100,000	100,000	0
ト レ セ ン 建 設 引 当 預 金 支 出	200,000	200,000	0
固定資産支出	[ 0]	[ 7,065,023]	[△ 7,065,023]
投資活動支出計	400,000	7,465,023	△ 7,065,023
投資活動収支差額	△ 400,000	△ 7,465,023	7,065,023
III 財務活動収支の部			
1. 財務活動収入			
財務活動収入計	0	0	0
2. 財務活動支出			
財務活動支出計	0	0	0
財務活動収支差額	0	0	0
当期収支差額	0	△ 9,698,123	9,698,123
前期繰越収支差額	0	31,687,903	△ 31,687,903
次期繰越収支差額	0	21,989,780	△ 21,989,780

# 収支計算書内訳表

平成30年 4月 1日から平成31年 3月31日まで

(単位：円)

科 目				合 計
	公益目的事業	収益事業	法人会計	
<b>I 事業活動収支の部</b>				
<b>1. 事業活動収入</b>				
基本財産運用収入	[ 0 ]	[ 0 ]	[ 3,377 ]	[ 3,377 ]
基本財産利息収入	0	0	3,377	3,377
会費収入	[ 10,133,400 ]	[ 0 ]	[ 10,133,400 ]	[ 20,266,800 ]
正会員会費収入	178,200	0	178,200	356,400
賛助会員個人会費収入	4,537,500	0	4,537,500	9,075,000
賛助会員団体会費収入	3,912,000	0	3,912,000	7,824,000
加会盟金	305,000	0	305,000	610,000
公認料	1,200,700	0	1,200,700	2,401,400
事業収入	[ 18,428,281 ]	[ 0 ]	[ 0 ]	[ 18,428,281 ]
補助金・委託金等収入	4,848,000	0	0	4,848,000
協賛金収入	1,166,400	0	0	1,166,400
参加料収入	9,547,553	0	0	9,547,553
その他の収入	2,866,328	0	0	2,866,328
補助金等収入	[ 14,500,000 ]	[ 0 ]	[ 0 ]	[ 14,500,000 ]
民間補助金収入	7,071,000	0	0	7,071,000
国庫補助金	7,429,000	0	0	7,429,000
寄付金収入	[ 2,795,180 ]	[ 0 ]	[ 0 ]	[ 2,795,180 ]
寄付金収入	2,600,000	0	0	2,600,000
募金収入	195,180	0	0	195,180
雑収入	[ 0 ]	[ 0 ]	[ 3,441 ]	[ 3,441 ]
受取利息	0	0	254	254
その他の	0	0	3,187	3,187
事業活動収入計	45,856,861	0	10,140,218	55,997,079
<b>2. 事業活動支出</b>				
事業費	[ 42,165,911 ]	[ 0 ]	[ 0 ]	[ 42,165,911 ]
コートフット	2,503,575	0	0	2,503,575
パンフレット	668,709	0	0	668,709
参加賞	502,135	0	0	502,135
トロフィー・メダル	195,513	0	0	195,513
保険代	32,496	0	0	32,496
交通費	52,850	0	0	52,850
宿泊費	774,568	0	0	774,568
郵送費	319,427	0	0	319,427
雑費	2,054,602	0	0	2,054,602
諸謝金	2,005,365	0	0	2,005,365
旅費	779,147	0	0	779,147
渡旅費	2,570,179	0	0	2,570,179
滞在費	2,923,460	0	0	2,923,460
借料及び損料	1,783,437	0	0	1,783,437
消耗品費	71,692	0	0	71,692
スポンソ用品費	330,480	0	0	330,480
印刷製本費	3,064,992	0	0	3,064,992
通信運搬費	911,753	0	0	911,753
雑役務費	6,657,635	0	0	6,657,635
保険料	75,520	0	0	75,520
その他	8,689,919	0	0	8,689,919
対象外経費	4,545,957	0	0	4,545,957
給付金支出	652,500	0	0	652,500
管理費	[ 11,880,814 ]	[ 0 ]	[ 4,183,454 ]	[ 16,064,268 ]
給与	8,181,180	0	2,045,295	10,226,475
旅費	631,776	0	157,944	789,720
通信運搬費	148,494	0	37,120	185,614
消耗什器備品費	254,166	0	63,541	317,707
印刷製本費	34,182	0	8,545	42,727
光熱水料費	195,884	0	48,971	244,855
賃貸借料	1,172,320	0	293,080	1,465,400
社負担金	1,262,812	0	315,702	1,578,514
公認会計士他費用	0	0	665,424	665,424
公益法人関連費用	0	0	150,000	150,000
公益法人関連費用	0	0	265,890	265,890

科 目				合 計
	公益目的事業	収益事業	法人会計	
登 記 費 用	0	0	96,600	96,600
雑 費	0	0	35,342	35,342
事業活動支出計	54,046,725	0	4,183,454	58,230,179
事業活動収支差額	△ 8,189,864	0	5,956,764	△ 2,233,100
II 投資活動収支の部				
1. 投資活動収入				
投資活動収入計	0	0	0	0
2. 投資活動支出				
特 定 預 金 支 出	[ 300,000]	[ 0]	[ 100,000]	[ 400,000]
退職給付引当預金支出	0	0	100,000	100,000
大会開催引当預金支出	100,000	0	0	100,000
トレセン建設引当預金支出	200,000	0	0	200,000
固定資産支出	[ 7,065,023]	[ 0]	[ 0]	[ 7,065,023]
投資活動支出計	7,365,023	0	100,000	7,465,023
投資活動収支差額	△ 7,365,023	0	△ 100,000	△ 7,465,023
III 財務活動収支の部				
1. 財務活動収入				
財務活動収入計	0	0	0	0
2. 財務活動支出				
財務活動支出計	0	0	0	0
財務活動収支差額	0	0	0	0
当期収支差額	△ 15,554,887	0	5,856,764	△ 9,698,123
前期繰越収支差額	△ 5,272,093	0	36,959,996	31,687,903
次期繰越収支差額	△ 20,826,980	0	42,816,760	21,989,780

## 収支計算書に対する注記

### 1. 資金の範囲

資金の範囲 ----- 現金預金、未収金、未払金、前払金、前受金、仮払金、仮受金、預り金  
なお、前期末及び当期末残高は、下記2に記載するとおりである。

### 2. 次期繰越収支差額に含まれる資産及び負債の内容

(単位:円)

科 目	前期末残高	当期末残高
現金預金	24,677,553	18,702,247
前払金	5,662,211	1,328,767
未収金	9,405,894	10,699,260
合 計(1)	39,745,658	30,730,274
未払金	1,869,555	2,061,294
前受金	4,801,200	5,799,200
預り金	1,387,000	880,000
合 計(2)	8,057,755	8,740,494
次期繰越収支差額(1)－(2)	31,687,903	21,989,780

公益社団法人日本スカッシュ協会 定款の一部変更

定款第 2 条の変更の新旧対照表

新 (変更後)	旧 (変更前)
<p>第1章 総則</p> <p>(事務所)</p> <p>第 2 条 この法人は、主たる事務所を東京都新宿区に置く。</p>	<p>第1章 総則</p> <p>(事務所)</p> <p>第 2 条 この法人は、主たる事務所を東京都千代田区に置く。</p>

公益社団法人日本スカッシュ協会定款

# 公益社団法人日本スカッシュ協会定款

## 第1章 総則

(名称)

第1条 この法人は、公益社団法人日本スカッシュ協会と称する。英訳名は、JAPAN SQUASH ASSOCIATION と称する。

(事務所)

第2条 この法人は、主たる事務所を東京都新宿区に置く。

## 第2章 目的及び事業

(目的)

第3条 この法人は、我が国におけるスカッシュ競技を統括し、当該競技の普及及び振興を図り、もって我が国におけるスポーツの振興に寄与することを目的とする。

(事業)

第4条 この法人は、前条の目的を達成するために次の事業を行う。

- (1) スカッシュ競技の普及に関すること。
- (2) 我が国のスカッシュ競技に係る競技力の向上に関すること。
- (3) スカッシュ競技に係る競技大会に関すること。
- (4) その他目的を達成するために必要な事業

2 前項第1号の事業は、日本全国において行うものとする。

## 第3章 社員

(法人の構成員)

第5条 この法人に次の会員を置く。

- (1) 正会員 都道府県におけるスカッシュ競技を統括する団体の代表者及び理事会において選任され総会で承認を受けた者
- (2) 賛助会員 当法人の活動に協賛する個人又は団体
- (3) 名誉会員 当法人に特に功労のあった者で社員総会の議決を経て推薦された者

2 前項の会員のうち正会員をもって一般社団法人及び一般財団法人に関する法律上の社員とする。

(会員の資格の取得)

第6条 この法人の会員になろうとする者は、理事会の定めるところにより申込みをし、その承認を受けなければならない。ただし、名誉会員に推薦された者は入会の手続きを要せず、本人の承諾をもって会員となるものとする。

(経費の負担)

第7条 この法人の事業活動に経常的に生じる費用に充てるため、会員になった時及び

毎年、会員は、社員総会において別に定める額を支払う義務を負う。

(任意退社)

第8条 会員は、理事会において別に定める退社届を提出することにより、任意にいつでも退社することができる。

(除名)

第9条 会員が次のいずれかに該当するに至ったときは、社員総会の議決によって当該会員を除名することができる。

- (1) この定款その他の規則に違反したとき。
- (2) この法人の名誉を傷つけ、又は目的に反する行為をしたとき。
- (3) その他除名すべき正当な事由があるとき。

(会員資格の喪失)

第10条 前2条の場合のほか、会員は、次のいずれかに該当するに至ったときは、その資格を喪失する。

- (1) 第7条の支払義務を2年以上履行しなかったとき。
- (2) 総社員が同意したとき。
- (3) 当該会員が死亡し、又は解散したとき。

## 第4章 社員総会

(構成)

第11条 社員総会は、すべての社員をもって構成する。

(権限)

第12条 社員総会は、次の事項を決議する。

- (1) 社員の除名
- (2) 理事及び監事の選任又は解任
- (3) 計算書類等の承認
- (4) 定款の変更
- (5) 解散及び残余財産の処分
- (6) 基本財産の処分の承認
- (7) その他社員総会で議決するものとして法令又はこの定款で定められた事項

(開催)

第13条 社員総会は、定時社員総会として毎年6月に1回開催するほか、必要がある場合に開催する。

(招集)

第14条 社員総会は、法令に別段の定めがある場合を除き、理事会の決議に基づき会長が招集する。

2 総社員の議決権の10分の1以上の議決権を有する社員は、会長に対し、社員総会の目的である事項及び招集の理由を示して、社員総会の招集を請求することができる。

(議長)

第15条 社員総会の議長は、会長がこれに当たる。

(議決権)

第16条 社員総会における議決権は、社員1名につき1個とする。

(議決)

第17条 社員総会の議決は、法令又はこの定款に別段の定めがある場合を除き、総社員の議決権の過半数を有する社員が出席し、出席した当該社員の議決権の過半数を持って行う。

2 前項の事項にかかわらず、次の決議は、総社員の半数以上であって、総社員の決議権の3分の2以上に当たる多数をもって行う。

- (1) 会員の除名
- (2) 監事の解任
- (3) 定款の変更
- (4) 解散
- (5) 基本財産の処分
- (6) その他法令で定められた事項

3 理事又は監事を選任する議案を決議するに際しては、各候補ごとに第1項の決議を行わなければならない。

理事又は監事の候補者の合計が第19条に定める定数を上回る場合には、過半数の賛成を得た候補者の中から得票数の多い順に定数の枠に達するまでの者を選任することとする。

(議事録)

第18条 社員総会の議事については、法令で定めるところにより、議事録を作成する。

2 議長、議事録作成者並びに出席した代表理事（代表理事が欠席の場合は総会で指名又は選任された理事2名）は、前項の議事録に署名捺印又は記名押印する。

## 第5章 役員

(役員の設定)

第19条 この法人には、次の役員を置く。

- (1) 理事 10名以上15名以内
- (2) 監事 3名以内

2 理事のうち1名を会長、若干名を常務理事とする。副会長1名をおくことができる。

3 前項の会長をもって一般社団法人及び一般財団法人に関する法律上の代表理事とし、

常務理事をもって同法第91条第1項第2号の業務執行理事とする。

(役員を選任)

第20条 理事及び監事は、社員総会の決議によって選任する。

2 代表理事及び業務執行理事は、理事会の決議によって理事の中から選定する。

第21条 この法人の理事のうちには、理事のいずれか1人及びその親族その他特殊の関係がある者の合計数が、理事総数（現在数）の3分の1を超えて含まれることになってはならない。

第22条 この法人の監事には、この法人の理事（親族その他特殊の関係がある者を含む。）及びこの法人の使用人が含まれてはならない。また、各監事は、相互に親族その他特殊の関係があつてはならない。

第23条 この法人が保有する株式（出資）について、その株式（出資）に係る議決権を行使する場合には、あらかじめ理事会において理事総数（現在数）の3分の2の承認を要する。

(理事の職務及び権限)

第24条 理事は理事会を構成し、法令及びこの定款で定めるところにより、職務を執行する。

2 会長は、法令及びこの定款で定めるところにより、この法人を代表し、その業務を執行し、常務理事は理事会において別に定めるところにより、この法人の業務を分担する。

(監事の職務及び権限)

第25条 監事は、理事の職務の執行を監査し、法令で定めるところにより、監査報告を作成する。

2 監事は、いつでも、理事及び使用人に対して事業の報告を求め、この法人の業務及び財産の状況の調査をすることができる。

(役員任期)

第26条 理事の任期は、選任後2年以内に終了する事業年度のうち最終のものに関する定時社員総会の終結の時までとする。

2 監事の任期は、選任後4年以内に終了する事業年度のうち最終のものに関する定時社員総会の終結の時までとする。

3 補欠として選任された理事又は監事の任期は、前任者の任期の満了する時までとする。

4 理事又は監事は、第19条に定める定数に足りなくなつたときは、任期の満了又は辞任により退任した後も、新たに選任された者が就任するまで、なお理事又は監事としての権利義務を有する。

(役員解任)

第27条 理事及び監事は、社員総会の決議によって解任することができる。

(報酬等)

第28条 理事及び監事は、無報酬とする。ただし、常勤の理事及び監事に対しては、社員総会において別に定める報酬等の支給の基準に従って算定した額を、社員総会の決議を経て、報酬等として支給することができる。

(名誉総裁、名誉会長、顧問及び運営委員)

第29条 この法人に、名誉総裁1名、名誉会長1名並びに顧問及び運営委員を若干名置くことができる。

2 名誉総裁、名誉会長、並びに顧問は、次の職務を行う。

(1) 会長の相談に応じること。

(2) 理事会から諮問された事項について参考意見を述べること。

3 運営委員は、次の職務を行う。

(1) 常務理事を補佐すること。

4 名誉総裁、名誉会長、顧問、運営委員の選任及び解任は、理事会において決議する。

5 名誉総裁、名誉会長、顧問、運営委員は、無報酬とする。

## 第6章 理事会

(構成)

第30条 この法人に理事会を置く。

2 理事会は、すべての理事をもって構成する。

(権限)

第31条 理事会は次の職務を行う。

(1) この法人の業務執行の決定

(2) 理事の職務執行の監督

(3) 代表理事及び業務執行理事の選定及び解職

(招集)

第32条 理事会は代表理事が招集する。

2 代表理事が欠けたとき又は代表理事に事故があるときは、各理事が理事会を招集する。

(決議)

第33条 理事会の決議は、決議について特別の利害関係を有する理事を除く理事の過半数が出席し、その過半数をもって行う。

2 理事が理事会の決議の目的である事項について提案をした場合において、当該提案につき理事(当該事項について決議に加わることができるものに限る。)の全員が書面又は電磁的記録により同意の意思表示をしたとき(監事が当該提案について異議を述べたときを除く。)は、当該提案を可決する旨の理事会の決議があったものとみなす。

(議事録)

第34条 理事会の議事については、法令で定めるところにより、議事録を作成する。

2 議長並びに出席した代表理事（代表理事が欠席の場合は出席した理事全員）及び監事は、前項の議事録に署名捺印又は記名押印する。

（運営委員会）

第35条 この法人に運営委員会を置く。

2 前項の委員会は、常務理事と運営委員で構成する。

3 第1項の委員会は、次に掲げる事項を行う。

（1） この法人の業務運営の年間計画案を策定し、理事会に提出すること。

（2） この法人の理事の職務の執行が法令及び定款に適合することを確保するための体制その他業務の適正を確保するために必要な体制の運用及び改善について、理事会に参考意見を提出すること。

（3） この法人の事業に従事する者からの法令違反行為等に関する通報に対して適切な処理を行うため、公益通報の窓口を設置・運用し、管理すること。

4 第1項の委員会の議事の運営の細則は理事会において定める。

## 第7章 資産及び会計

（基本財産）

第36条 この法人の目的である事業を行うために不可欠な別表の財産は、この法人の基本財産とする。

2 基本財産は、この法人の目的を達成するために善良な管理者の注意をもって管理しなければならないが、基本財産の一部を処分しようとするとき及び基本財産から除外しようとするときは、あらかじめ理事会及び評議員会の承認を要する。

（剰余金）

第37条 この法人は、剰余金の分配を行うことができない。

（事業年度）

第38条 この法人の事業年度は、毎年4月1日に始まり、翌年3月31日に終わる。

（事業計画及び収支予算）

第39条 この法人の事業計画書、収支予算書、資金調達及び設備投資の見込みを記載した書類については、毎事業年度の開始前までに、会長が作成し、理事会の承認を受けなければならない。これを変更する場合も、上記のとおりです。

2 前項の書類については、主たる事務所に、当該事業年度が終了するまでの間据え置き、一般の閲覧に供するものとする。

（事業報告及び決算）

第40条 この法人の事業報告及び決算については、毎事業年度終了後、会長が次の書類を作成し、監事の監査を受けた上で、理事会の承認を経て、定時社員総会に提出し、第

1号及び第2号の書類についてはその内容を報告し、第3号から第6号までの書類については承認を受けなければならない。

- (1) 事業報告書
- (2) 事業報告の附属明細書
- (3) 貸借対照表
- (4) 損益計算書（正味財産増減計算書）
- (5) 貸借対照表及び損益計算書（正味財産増減計算書）の附属明細書
- (6) 財産目録

2 前項の規定により報告され、又は承認を受けた書類のほか、次の書類を主たる事務所に5年間備え置き、一般の閲覧に供するとともに、定款、社員名簿を主たる事務所に備え置き、一般の閲覧に供するものとする。

- (1) 監査報告
- (2) 理事及び監事の名簿
- (3) 理事及び監事の報酬等の支給の基準を記載した書類
- (4) 運営組織及び事業活動の状況の概要及びこれらに関する数値のうち重要なものを記載した書類

（公益目的取得財産残額の算定）

第41条 会長は、公益社団法人及び公益財団法人の認定等に関する法律施行規則第48条の規定に基づき、毎事業年度、当該事業年度の末日における公益目的取得財産残額を算定し、前条第2項第4号の書類に記載するものとする。

（基金）

第42条 この法人は、基金を引き受ける者の募集をすることができる。

2 抛出された基金は、この法人が解散するまで返還しない。

3 基金の返還の手続きについては、一般社団法人及び一般財団法人に関する法律第236条の規定に従い、基金の返還を行う場所及び方法その他の必要な事項を清算人において別に定めるものとする。

## 第8章 定款の変更及び解散

（定款の変更）

第43条 この定款は、社員総会の決議によって変更することができる。

（解散）

第44条 この法人は、社員総会の決議その他法令で定められた事由により解散する。

（公益認定の取り消し等に伴う贈与）

第45条 この法人が公益認定の取り消しの処分を受けた場合又は合併により法人が消滅する場合（その権利義務を承継する法人が公益法人であるときを除く。）には、社員総会の決議を経て、公益目的取得財産残額に相当する額の財産を、当該公益認定の取り消し

の日又は当該合併の日から1箇月以内に、公益社団法人及び公益財団法人の認定等に関する法律第5条第17号に掲げる法人又は国若しくは地方公共団体に贈与するものとする。

(残余財産の帰属)

第46条 この法人が清算をする場合において有する残余財産は、社員総会の決議を経て、公益社団法人及び公益財団法人の認定等に関する法律第5条第17号に掲げる法人又は国若しくは地方公共団体に贈与するものとする。

## 第9章 公告の方法

(公告の方法)

第47条 この法人の公告は、電子公告により行う。

2 事故その他やむを得ない事由によって前項の電子公告をできない場合は官報に掲載する方法による。

附則

- 1 この定款は、一般社団法人及び一般財団法人に関する法律及び公益社団法人及び公益財団法人の認定等に関する法律の施行に伴う関係法律の整備等に関する法律第106条第1項に定める公益法人の設立の登記の日から施行する。
- 2 この法人の最初の会長は藤ヶ崎訥美とする。
- 3 一般社団法人及び一般財団法人に関する法律及び公益社団法人及び公益財団法人の認定等に関する法律の施行に伴う関係法律の整備等に関する法律第106条1項に定める特例民法法人の解散の登記と、公益法人の設立の登記を行ったときは、第39条の規定にかかわらず、解散の登記の日の前日を事業年度の末日とし、設立の登記の日を事業年度の開始日とする。

別表 基本財産（第36条関係）

財産種別	場所・物量等
定期預金 15,432,092	りそな銀行神田支店 8,309,208 シティーバンク大手町支店 2,020,024 三菱東京UFJ銀行神田支店 5,102,860

# 平成 30 年度スカッシュ応援募金等活動等報告

公益社団法人日本スカッシュ協会

## <平成 30 年度スカッシュ応援募金>

4月3日	全日本ジュニアスカッシュ大会にて	2,000 円
10月16日	マスターズカーニバルにて	10,000 円
11月23日	全日本スカッシュ選手権にて 佐藤和興様	3,000 円
-----		
	計	15,000 円

## <平成 30 年アジア競技大会のトレーナー派遣への寄付>

6月26日	北海道オープンより	41,000 円
8月10日	喜渡 正様 (同好会より)	50,000 円
8月15日	ヤマモト ヨシエ 様	6,000 円
8月17日	関東支部 より	53,180 円
8月28日	小川 哲明 様	30,000 円
-----		
	計	180,180 円

(公社) 日本スカッシュ協会のアクションプラン活動等における「スカッシュ応援募金」へのご支援ご協力を賜り厚く御礼申し上げます。

ここに、平成 30 年度の募金内容をご報告致します。

ご協力頂きました募金に関しましては、今後の選手強化事業に活用させていただきます。

又、アジア競技大会へのトレーナー派遣への寄付にもご協力を頂きまして誠に有難うございました。お蔭様でトレーナー派遣の航空運賃や宿泊費等に充てる事ができました。厚く御礼申し上げます。

(公社) 日本スカッシュ協会では、今後共、世界で活躍出来る選手の育成強化に向けて力を注いでまいります。引き続き尚一層のご支援ご協力を賜りますように切にお願い申し上げます。

## 2018年度・2019年度プレミアムパートナー会員の紹介

2018年度プレミアムパートナー会員※2019年3月末日現在

### 〈個人〉

斎藤 寛幸	スプラッシュ
杉本 和子	関西支部
吉原 信二	スパ白金
渡辺 裕	セントラル青砥
他2名	

(敬称略/アイウエオ順)

### 〈団体〉

アサヒグループホールディングス株式会社
(株式会社サンワ)
株式会社ティップネス
株式会社ヤマナカシャツ
株式会社ランド
学校法人国際学園九州医療スポーツ専門学校
HEAD Japan 株式会社
リバティスカッシュコート

(アイウエオ順)

2019年度プレミアムパートナー会員※2019年5月15日現在

### 〈個人〉

喜渡 和子	コナミ西宮
吉原 信二	関東支部
渡辺 裕	セントラル青砥
他2名	

(敬称略/アイウエオ順)

### 〈団体〉

株式会社サンワ
株式会社ティップネス
株式会社ヤマナカシャツ
学校法人国際学園九州医療スポーツ専門学校
リバティスカッシュコート
合同会社Greetings

(アイウエオ順)

# 2019年度 事業計画

公益社団法人日本スカッシュ協会

## (1) スカッシュ競技の普及に関する事業

### ① スカッシュデー・スカッシュウィークの実施

主催：(公社) 日本スカッシュ協会

主管：全国のスポーツクラブ及び地区支部等

日程：<スカッシュデー><スカッシュウィーク>

※これまで2月11日の協会設立記念日前後の2週間で実施してきたが、世界スカッシュ連盟のワールドスカッシュデーのイベントとの連携させ相乗効果を図るため、今年度より10月12日をスカッシュデーとし、スカッシュウィークを10月5日～20日とする予定。

会場：全国のスポーツクラブのスカッシュコート等

目的：より多くの方々にスカッシュを体験し楽しんでもらう機会にする。

対象：一般の方、だれでも参加可能。

参加予定人数：約2,000名

内容：体験会、試打会、ヒッティングパートナー、レッスン体験、ゲーム体験等

※将来的にはクラブ対抗やチーム戦などを取り入れリーグに発展させる意向。

### ② 広報活動

イ) 広報機関誌<SQUASH>の発行(年2回)

(平成31年度スポーツ振興くじ助成申請中)

Vol. 85(夏の号)7月 Vol. 86(冬の号)平成31年2月発行予定

ロ) ホームページの更新、管理

ハ) Facebook・TwitterなどSNSを利用した情報発信

ニ) 日本スポーツ協会記者クラブ等マスコミへのプレスリリース等情報発信

### ③ 大会等のスポンサー対策及び年間協賛(プレミアムパートナー会員)の増進

### ④ 環境対策委員会にてJSAエコプロジェクトを推進する

スカッシュの大会等におけるゴミの分別、マイカップ持参によるエコ活動推奨、及び環境ポスターの掲示を全国的に展開する。

### ⑤ エアスカッシュを活用した全国キャラバンを実施

体験者4,000名を超えたエアスカッシュイベントを引き続き積極的に実施していく。

### ⑥ 4面ガラスコートを活用して、公の場所でスカッシュイベントを開催し、競技の認知度や人気向上のための事業展開を模索していく。

## (2) スカッシュ競技の競技力の向上に関する事業

### ① スカッシュの競技力向上に関する事業

目的：国際大会でメダルを獲得できる選手の育成と強化を目的とする。

対象：各強化指定選手、候補選手、スカウト対象のジュニア選手、強化コーチ

内容：

イ) 選手強化委員会によるJSA強化指定選手の競技力強化と育成

ロ) 次世代強化選手の発掘。<ジュニアスカウトセレクション>の実施

## ② ナショナルトレーニング及び強化合宿の開催

日程： <ナショナルトレーニング>月 1 回程度年間を通して実施予定  
<J S A 強化合宿>2020 年 1 月と 2021 年 3 月に実施予定  
<ジュニアキャンプ>夏・秋・冬に開催予定

会場：サンセットブリーズ保田、スカッシュマジックアカデミー、等

目的：アスリートである前に人間力の向上を重視し、その上で東アジア選手権、アジア選手権、世界選手権と言った大会での入賞を目指す。

対象：ジュニア、シニアを問わず、代表選手、強化指定選手、候補選手、学連選手も含め、強化対象に相応しい選手。

参加予定人数：各回 6~20 名前後を予定

内容：フィジカルチェック、コンディショニングゲーム、フィジカルトレーニング、基本ショット及び戦術練習、ゲーム練習、等。

## ③ JSA 公認レベル T (普及トレーナー) 及びレベル 1 (コーチ) 認定講習会と認定試験の開催と資格保持者の更新手続き

主催：(公社) 日本スカッシュ協会

日程：年各 1~3 回開催予定 (レベル T/4 月・10 月、レベル 1/5 月予定)

会場：未定

目的：スカッシュの知識と指導法を習得し、楽しめるスカッシュや、技術向上をサポートできる人材を増やす。認定資格は 3 年毎に更新。

対象：レベル T---初心者技術向上や練習仲間作りをサポート出来る方。  
愛好者レベルで取得可。

レベル 1---一般的なクラブプレイヤーをコーチングする指導者。

レベル 2---上級プレイヤーを指導するインストラクター (作成中)

参加予定人数：各回 10 名前後を予定

内容：レベル T---スカッシュの基本知識の講義と基本ショットの実技

レベル 1---中級レベルの知識や、大会運営組織づくりを踏まえた講義と初心者レッスンに必要な実技 筆記と実技試験にて認定

レベル 2---上級レベルの知識や戦術なども踏まえた講義とレッスンに必要な実技 筆記と実技試験合格後、課題提出後に認定

## ④ (公社) 日本スカッシュ協会コーチングワークショップ及びコーチミーティングの開催

主催：(公社) 日本スカッシュ協会

日程：年 1~3 回開催 (ワークショップ/6 月・12 月、ミーティング 3 月予定)

会場：未定 (東日本及び西日本を予定)

目的：選手育成に必要な情報を更新、共有し、クラブコーチの指導力を向上させると同時に、国内のコーチング資格者のレベルアップを目指す。

対象：J S A 公認レベル 1 コーチ

J S A 公認スカッシュ普及トレーナー (レベル T)

J S A 強化指定選手・強化指定候補選手・スカウト対象選手の指導者

J S A 強化指定選手・強化指定候補選手・スカウト対象選手のご父兄の方

参加予定人数：10 名前後を予定

## ⑤ JSA レベル 1 コーチへのリフレッシュ講習会及び WSA レベル 1 コーチへのリフレッシュ講習会の開催

主催：(公社) 日本スカッシュ協会

日程：年1～2回開催

会場：未定（WSF レベル1へのリフレッシュ講習会は関東と関西にて開催予定）

目的：レベル1コーチ資格保持者のレベルの向上を目指す。

対象：JSA レベル1へのリフレッシュ講習会⇒海外レベル1取得者が対象

WSF レベル1へのリフレッシュ講習会⇒JSA レベル1取得者が対象

参加予定人数：各10名前後を予定

⑥ JSA 公認審判講習会と認定試験の開催・資格更新手続き<2級・3級・4級>

主催：（公社）日本スカッシュ協会及び全国の地区都道府県支部

日程：全国にて年10回程度開催予定

会場：全国のスポーツクラブのスカッシュコート又は地区公共施設

目的：レフリー・マーカールの正しい知識を習得し、スカッシュ審判の一層の技術向上を目的とする。

対象：4級—一般、ジュニア等のスカッシュ経験が短い方等。

3級—スカッシュの競技歴が1年以上と認められる方等。

2級—スカッシュの競技歴が3年以上と認められる方等。

参加予定人数：各回10～30名前後を予定

内容：講習会にて、ルールやレフリー・マーカールのあり方、正しいジャッジ（判断）の進め方、トラブルの対処方法、観客や試合のコントロールについて学び、筆記試験とビデオを使った実技試験の点数により認定の可否が決められる。認定後の資格は3年毎に更新。

⑦ （公社）日本スカッシュ協会レフリーワークショップの開催

主催：（公社）日本スカッシュ協会

日程：年1～2回開催

会場：スカッシュマジックアカデミー、他（東日本及び西日本を予定）

目的：新しい情報を共有し、プレイヤーの疑問に答えながら、全国の審判レベルの向上、ジャッジのスタンダードを示し、統一化を目指す。

対象：JSA公認審判員

スカッシュのレフリーに興味がある方

参加予定人数：10名前後を予定

**(3) スカッシュ競技の競技大会に関する事業**

① 協会主催の競技大会 ※日程、会場等は予定

イ) 第30回全日本アンダー23スカッシュ選手権大会

日程：6月1日・2日

会場：さいたまスカッシュスタジアムSQ-CUBE

目的：日本のトッププレイヤーを目指す若いプレイヤーの育成強化

対象：23歳未満の男女

参加予定人数：約100名

内容：トーナメント戦

ロ) 第33回ジャパンジュニアオープンスカッシュ選手権大会

<ワールドジュニアサーキット(WSF世界連盟承認)>

<アジアジュニアスーパーシリーズ(ASF アジア連盟承認)>

日程：8月12日～15日

会場：ヨコハマスカッシュスタジアム SQ-CUBE

目的：国内で海外のジュニア選手と対戦できる貴重な機会。国際交流と競技力向上を目的とする。

対象：男女アンダー19、17、15、13、11、9の選手

参加予定人数：約240名

内容：トーナメント戦またはリーグ戦

ハ) 第14回東アジアスカッシュ選手権大会

<平成31年度スポーツ振興基金助成申請中>

日程：8月23日 24日 25日

会場：東京アメリカンクラブ

目的：東アジアスカッシュ連盟7加盟国による親善大会で、国際大会の参加、大会運営、競技審判の経験を積むことを目的としている。

二) 第25回マスターズカーニバル

日程：10月12日 13日

会場：ヨコハマスカッシュスタジアム SQ-CUBE

目的：マスターズ年代のスカッシュ愛好家による親睦を図り、スカッシュの試合を通じた楽しい仲間作りを目的とする。

また、「ワールドマスターズゲームズ関西2021」開催を視野に入れ、大会を盛り上げ2021年の体制を整える。

対象：男女オーバー30、40、50、60（初心者～ベテラン）

参加予定人数：約150名

内容：トーナメント及びリーグ制。ペアマッチ他。

ホ) 文部科学大臣杯争奪第48回全日本スカッシュ選手権大会（冠は予定）

<平成31年度スポーツ振興基金助成申請中>

日程：11月14日（木）～17日（日）

会場：ヨコハマスカッシュスタジアム SQ-CUBE&トレッサ横浜

目的：1年を通して開催された公認大会、地区支部選手権を経て参加資格を得た優秀選手達による、国内最高峰の大会。その年の男女の日本チャンピオンが決定する。日本中から集まる競技者の交流と、競技力向上を目的とする。4面グラスコートを設置してより活発な広報活動につなげる。

対象：全国の公認大会における上位入賞者で、日本国籍を有する者、及び男女マスターズ

参加予定人数：約200名

内容：トーナメント制

へ) JOC ジュニアオリンピックカップ第22回全日本ジュニアスカッシュ選手権大会（冠は予定）

日程：2020年3月下旬

会場：未定

目的：日本のジュニア選手で年代別チャンピオンを競う大会であり、交流と技術向上を目的とする。U19の優勝者はJOCオリンピック有望選手研修会に指導者とともに参加できる。

対象：男女アンダー19、17、15、13、11、9の選手で、日本国籍を有する者  
参加予定人数：約160名  
内容：トーナメント制

## ② 海外大会日本代表派遣(予定)

### イ) アジアスカッシュ個人選手権

日程：5月1日～5日

開催地：マレーシア

### ロ) アジアジュニアスカッシュ選手権 個人戦

日程：6月26日～30日

開催地：マカオ

種目：男女アンダー19,17,15,13

### ハ) ペナンジュニアオープン

日程：7月9日～14日

開催地：ペナン・マレーシア

種目：男女アンダー19,17,15,13

### ニ) 香港ジュニアオープン

日程：7月23日～27日

開催地：香港

種目：男女アンダー19,17,15,13,11

### ホ) 世界ジュニアスカッシュ団体選手権 <女子個人戦・団体戦>

日程：女子個人戦・団体戦 7月30日～8月4日

開催地：クアラルンプール/マレーシア

<選考会> 5月3日・4日

### ヘ) 男子世界スカッシュ団体戦

日程：12月15日～21日

開催地：アメリカ（ワシントン）

種目：男子団体戦

### ト) その他

KLジュニアオープン

シンガポールオープン

USジュニアオープン

コリアンオープン

ブリティッシュジュニアオープン

スコティッシュジュニアオープン

などは、個人参加大会となり、協会は参加承認を行う。また結果についても適宜発信する。

## ③ 国際大会やイベントの日本開催に向けての資金及び情報の収集

目的：国際大会やイベントの自国開催は、好条件で日本選手が戦う事ができ、より好成績を臨む事ができる。又、国際レベルのプレーを生観戦できる機会になり、メディアの露出を語り、更に多くの人々のスカッシュへの認知度や関心を高める。

計画：2020年スポーツ・ラボ「スカッシュ・ショーケース競技」開催に向けて4面グラスコートの使用を視野に入れた会場選択と準備。資金を集める為の寄付抽選会の実施。

#### (4) その他本会の目的を達成する為に必要な振興事業

##### ① アジア競技大会に向けてのロビー活動及び選手強化活動

目的：2018年のアジア競技大会では女子チーム史上初の銅メダル獲得。2022年・杭州大会に向けて男女とも上位を目指して選手強化を図る。  
又、2026年愛知・名古屋開催のアジア競技大会の為に愛知県スポーツ振興課に協力し、レガシーとなる会場作りを働きかける。

対象：男女ナショナルチーム

種目：男女シングル戦、団体戦

内容：選手強化の為の合宿を集中して行う。

##### ② オリンピックビド：スカッシュ競技採用の為の推進活動

目的：パリ五輪 OCOG からの推薦はかなわなかったものの、今後も正式競技採用を目指す。2020東京五輪のオリンピックムーブメントを最大限に利用し、認知度を上げる事業の実施を計画する。

内容：WSF（世界スカッシュ連盟）PSA に全面協力し、情報提供、情報発信など、スカッシュ業界を活発にアピールする。IOC（国際オリンピック委員会）並びに東京オリンピック組織委員会に実験的公開競技<スポーツ・ラボ>の実現を求める。

##### ③ ワールドマスターズゲームズ関西 2021 の準備および RP 活動

内容：2021年に京都市にて開催されるワールドマスターズゲームズ関西でのスカッシュ競技に向けて中央競技団体として、組織委員会、京都市実行委員会と連携を取り関西支部の協力を得、大会成功を目指す。

##### ④ ドーピング検査及びドーピング防止啓蒙活動

内容：ドーピング検査の実施する。（全日本選手権）

連絡会議、説明会等の参加・

強化合宿において講習会の実施。

学連を対象に教育啓蒙活動を充実していく。

選手からのアンチ・ドーピングに関する相談に応じる。

日本スポーツフェアネス推進機構、日本アンチ・ドーピング機構と連携し国内の啓蒙活動を進める。

##### ⑤ 会員募集事業と公認事業制度の運用

内容：\*個人会員登録及び協会公認・承認大会への参加は（株）アプロード運用の「スポーツエントリー」を利用して利便性を図る。但し、大会時の利用の是非は主催者の判断とする。

\*世界スカッシュ連盟（WSF）の規格に基づいて、コート及びボールの

公認を行いスカッシュ競技の安全性や統一を図る。

\*ポイントが取得できる公認大会を統括（大会公認、要項、ドロー、結果の確認）し、ランキングを管理する。全日本選手権への参加資格取得を目指すなど、選手の競技活動の継続奨励と競技力向上を図る。

\*平成26年度に導入したジュニアランキングを継続発行する。

⑥ 世界スカッシュ連盟、アジアスカッシュ連盟、東アジアスカッシュ連盟、各国協会、PSA(プロ協会)との相互協力、連携

目的：海外の情報を共有し、国内へ発信。また、海外と友好関係と協力体制を維持し、競技力、団体運営の充実に結び付く積極的な活動を行う。

⑥ 全日本学生連盟との連携、強化

目的：学生連盟の所属選手も個人登録とし、学連団体会費は一括納入とする。協会機関誌を個別に発送する事により情報を一層密に伝達する。又、学連団体運営基盤の強化を支援、指導する。大会運営においても、協会とのつながりを強化し、卒業後も競技に携わる学生OB、OGと共に運営に参加できる協会を目指して行く。

⑧ 「(公社)日本スカッシュ協会ナショナルトレーニングセンター(仮称)」建設に向けた資金及び情報の収集

目的：選手強化活動の拠点となる、協会所有のコートの建設を目指す。

国際大会が開催出来る施設を所有し、国際連盟との協調を増進させ、より自国の競技の発展につなげる事ができる。

国や自治体の協力を得て「(公社)日本スカッシュ協会ナショナルトレーニングセンター(仮称)」の建設を目指し、資金と情報の収集する。

計画：1、今後建設予定の各種施設へのスカッシュコート設置を積極的に働きかけをする。

2、自治体、学校、企業に働きかけ、スカッシュコート建設につなげる。

⑨ 日本スポーツ協会（体育協会）加盟に向けての活動

目的：一層のスカッシュ普及の為、全国各支部体制を強化して各都道府県及び市の体育協会への加盟実現に向けて一層の準備を進める。

⑩ コンプライアンスの強化

目的：(公社)日本スカッシュ協会倫理規程を見直し、細則追加等により、スポーツにおけるインテグリティの充実、及びドーピング防止活動を継続、推進する。最新の関連情報の提供と注意喚起を徹底する。

⑪ 公益法人としての活動の強化

目的：公益社団法人としての適正な活動を行い、スカッシュの一層の全国普及振興に努力する。

# 収支予算書

平成31年 4月 1日から平成32年 3月31日まで

(単位:円)

科 目	予算額	前年度予算額	増 減
I 一般正味財産増減の部			
1. 経常増減の部			
(1) 経常収益			
基本財産運用益	[ 10,000]	[ 10,000]	[ 0]
基本財産受取利息	10,000	10,000	0
受取会費	[ 22,579,250]	[ 17,529,250]	[ 5,050,000]
正会員受取会費	356,400	356,400	0
賛助会員個人受取会費	10,762,850	10,262,850	500,000
賛助会員団体受取会費	3,650,000	3,600,000	50,000
特別会員受取会費	4,500,000	0	4,500,000
加盟金	610,000	610,000	0
公認料	2,700,000	2,700,000	0
事業収益	[ 17,531,550]	[ 14,188,531]	[ 3,343,019]
補助金・委託金等収入	5,159,000	2,300,000	2,859,000
協賛金収入	3,022,400	4,301,031	△ 1,278,631
入場料収入	100,000	500,000	△ 400,000
参加料収入	8,318,850	6,275,500	2,043,350
その他の収入	431,300	312,000	119,300
雑収入	500,000	500,000	0
受取補助金等	[ 19,236,000]	[ 12,441,000]	[ 6,795,000]
民間補助金収入	6,354,000	4,500,000	1,854,000
国庫等助成金	12,882,000	7,941,000	4,941,000
受取寄付金	[ 600,000]	[ 600,000]	[ 0]
募金収益	600,000	600,000	0
雑収益	[ 1,000]	[ 1,000]	[ 0]
受取利息	1,000	1,000	0
経常収益計	59,957,800	44,769,781	15,188,019
(2) 経常費用			
事業費	[ 38,735,951]	[ 27,577,781]	[ 11,158,170]
コトフイツト	2,518,260	2,238,660	279,600
パンフレット	366,300	357,700	8,600
参加賞	454,200	471,200	△ 17,000
トロフィ・メダル	301,028	309,588	△ 8,560
保険代	26,372	26,372	0
交通費	405,800	587,100	△ 181,300
宿泊費	42,000	107,000	△ 65,000
郵送費	210,000	182,000	28,000
雑費	607,321	585,161	22,160
諸謝金	2,362,000	2,472,100	△ 110,100
旅費	2,985,409	1,069,100	1,916,309
渡航費	2,360,260	2,261,840	98,420
滞在費	2,762,800	2,275,842	486,958
借料及び損料	2,556,396	1,297,051	1,259,345
消耗品費	556,162	423,641	132,521
スボーツ用品費	379,704	295,245	84,459
備用品費	250,000	250,000	0
印刷製本費	5,056,644	2,944,111	2,112,533
通信運搬費	133,485	113,858	19,627
雑役務費	9,188,560	7,244,359	1,944,201
保険料	32,000	55,310	△ 23,310
その他	26,343	15,543	10,800
対象外経費	3,939,237	795,000	3,144,237

科 目	予算額	前年度予算額	増 減
給 付 金 支 出	900,000	900,000	0
雑 支 出	315,670	300,000	15,670
管 理 費	[ 19,821,849]	[ 16,792,000]	[ 3,029,849]
給 旅 費 交 通 費 与	10,202,000	10,202,000	0
通 信 運 搬 費	900,000	800,000	100,000
会 議 費	764,000	330,000	434,000
消 耗 什 器 備 品 費	38,000	10,000	28,000
印 刷 製 本 費	500,000	500,000	0
光 熱 水 料 費	417,849	50,000	367,849
賃 借 料	250,000	250,000	0
社 会 保 険 料	2,400,000	1,500,000	900,000
負 担 金 支 出	2,000,000	2,000,000	0
公 認 会 計 士 他 費 用	700,000	500,000	200,000
公 益 法 人 関 連 費 用	150,000	150,000	0
登 記 費	250,000	250,000	0
雑 費	150,000	150,000	0
經常費用計	1,100,000	100,000	1,000,000
評価損益等調整前当期經常増減額	58,557,800	44,369,781	14,188,019
評価損益等計	1,400,000	400,000	1,000,000
当期經常増減額	0	0	0
当期經常増減額	1,400,000	400,000	1,000,000
2. 經常外増減の部			
(1) 經常外収益			
經常外収益計	0	0	0
(2) 經常外費用			
經常外費用計	0	0	0
当期經常外増減額	0	0	0
当期一般正味財産増減額	0	0	0
一般正味財産期首残高	1,400,000	400,000	1,000,000
一般正味財産期末残高	0	0	0
一般正味財産期末残高	1,400,000	400,000	1,000,000
II 指定正味財産増減の部			
当期指定正味財産増減額	0	0	0
指定正味財産期首残高	0	0	0
指定正味財産期末残高	0	0	0
III 正味財産期末残高	1,400,000	400,000	1,000,000

# 収支予算書内訳表

平成31年 4月 1日から平成32年 3月31日まで

(単位：円)

科 目				合 計
	公益目的事業	収益事業	法人会計	
<b>I 一般正味財産増減の部</b>				
<b>1. 経常増減の部</b>				
<b>(1) 経常収益</b>				
基本財産運用益	[ 0 ]	[ 0 ]	[ 10,000 ]	[ 10,000 ]
基本財産受取利息	0	0	10,000	10,000
受取会費	[ 11,289,625 ]	[ 0 ]	[ 11,289,625 ]	[ 22,579,250 ]
正会員受取会費	178,200	0	178,200	356,400
賛助会員個人受取会費	5,381,425	0	5,381,425	10,762,850
賛助会員団体受取会費	1,825,000	0	1,825,000	3,650,000
特別会員受取会費	2,250,000	0	2,250,000	4,500,000
加盟金	305,000	0	305,000	610,000
公認料	1,350,000	0	1,350,000	2,700,000
事業収益	[ 17,531,550 ]	[ 0 ]	[ 0 ]	[ 17,531,550 ]
補助金・委託金等収入	5,159,000	0	0	5,159,000
協賛金収入	3,022,400	0	0	3,022,400
入場料収入	100,000	0	0	100,000
参加料収入	8,318,850	0	0	8,318,850
その他の収入	431,300	0	0	431,300
雑収入	500,000	0	0	500,000
受取補助金等	[ 19,236,000 ]	[ 0 ]	[ 0 ]	[ 19,236,000 ]
民間補助金収入	6,354,000	0	0	6,354,000
国庫等助成金	12,882,000	0	0	12,882,000
受取寄付金	[ 600,000 ]	[ 0 ]	[ 0 ]	[ 600,000 ]
募金収益	600,000	0	0	600,000
雑収益	[ 0 ]	[ 0 ]	[ 1,000 ]	[ 1,000 ]
受取利息	0	0	1,000	1,000
経常収益計	48,657,175	0	11,300,625	59,957,800
<b>(2) 経常費用</b>				
事業費	[ 38,735,951 ]	[ 0 ]	[ 0 ]	[ 38,735,951 ]
コート・フレット	2,518,260	0	0	2,518,260
パンフレット	366,300	0	0	366,300
参加賞	454,200	0	0	454,200
トロフィー・メダル	301,028	0	0	301,028
保険代	26,372	0	0	26,372
交通費	405,800	0	0	405,800
宿泊費	42,000	0	0	42,000
郵送費	210,000	0	0	210,000
雑費	607,321	0	0	607,321
諸謝金	2,362,000	0	0	2,362,000
旅費	2,985,409	0	0	2,985,409
渡航費	2,360,260	0	0	2,360,260
滞在費	2,762,800	0	0	2,762,800
借料及び損料	2,556,396	0	0	2,556,396
消耗品費	556,162	0	0	556,162
スポンジ用品費	379,704	0	0	379,704
備用品費	250,000	0	0	250,000
印刷製本費	5,056,644	0	0	5,056,644
通信運搬費	133,485	0	0	133,485
雑役務費	9,188,560	0	0	9,188,560
保険料	32,000	0	0	32,000
その他	26,343	0	0	26,343
対象外経費	3,939,237	0	0	3,939,237
給付金支出	900,000	0	0	900,000
雑支出	315,670	0	0	315,670
管理費	[ 14,024,880 ]	[ 0 ]	[ 5,796,969 ]	[ 19,821,849 ]
給与	8,161,600	0	2,040,400	10,202,000
旅費	720,000	0	180,000	900,000
通信運搬費	664,000	0	100,000	764,000
会議費	25,000	0	13,000	38,000
消耗什器備品費	400,000	0	100,000	500,000
印刷製本費	334,280	0	83,569	417,849
光熱水料費	200,000	0	50,000	250,000

科 目				合 計
	公益目的事業	収益事業	法人会計	
賃借料	1,920,000	0	480,000	2,400,000
社会保険料	1,600,000	0	400,000	2,000,000
負担金支出	0	0	700,000	700,000
公認会計士他費用	0	0	150,000	150,000
公益法人関連費用	0	0	250,000	250,000
登記費	0	0	150,000	150,000
雑費	0	0	1,100,000	1,100,000
経常費用計	52,760,831	0	5,796,969	58,557,800
評価損益等調整前当期経常増減額	△ 4,103,656	0	5,503,656	1,400,000
評価損益等計	0	0	0	0
当期経常増減額	△ 4,103,656	0	5,503,656	1,400,000
2. 経常外増減の部				
(1) 経常外収益				
経常外収益計	0	0	0	0
(2) 経常外費用				
経常外費用計	0	0	0	0
当期経常外増減額	0	0	0	0
当期一般正味財産増減額	△ 4,103,656	0	5,503,656	1,400,000
一般正味財産期首残高	0	0	0	0
一般正味財産期末残高	△ 4,103,656	0	5,503,656	1,400,000
II 指定正味財産増減の部				
当期指定正味財産増減額	0	0	0	0
指定正味財産期首残高	0	0	0	0
指定正味財産期末残高	0	0	0	0
III 正味財産期末残高	△ 4,103,656	0	5,503,656	1,400,000

## 附属明細書

### 1. 基本財産及び特定資産の明細

「財務諸表に対する注記」の「2.基本財産及び特定資産の増減額及び残高」に記載のとおりである。

### 2. 引当金の明細

(単位:円)

科 目	期首残高	当期増加額	当期減少額		当期末残高
			目的使用	その他	
退職給付引当金	400,000	100,000	-	-	500,000

# 収支予算書(収支)

平成31年 4月 1日から平成32年 3月31日まで

(単位:円)

科 目	予算額	前年度予算額	増 減
<b>I 事業活動収支の部</b>			
<b>1. 事業活動収入</b>			
基本財産運用収入	[ 10,000]	[ 10,000]	[ 0]
基本財産利息収入	10,000	10,000	0
会費収入	[ 22,579,250]	[ 17,529,250]	[ 5,050,000]
正会員会費収入	356,400	356,400	0
賛助会員個人会費	10,762,850	10,262,850	500,000
賛助会員団体会費	3,650,000	3,600,000	50,000
特別会員費	4,500,000	0	4,500,000
加盟金	610,000	610,000	0
公認料	2,700,000	2,700,000	0
事業収入	[ 17,531,550]	[ 14,188,531]	[ 3,343,019]
補助金・委託金等収入	5,159,000	2,300,000	2,859,000
協賛金収入	3,022,400	4,301,031	△ 1,278,631
入場料収入	100,000	500,000	△ 400,000
参加料収入	8,318,850	6,275,500	2,043,350
その他の収入	431,300	312,000	119,300
雑収入	500,000	500,000	0
補助金等収入	[ 19,236,000]	[ 12,441,000]	[ 6,795,000]
民間補助金収入	6,354,000	4,500,000	1,854,000
国庫等助成金	12,882,000	7,941,000	4,941,000
寄付金収入	[ 600,000]	[ 600,000]	[ 0]
募金収入	600,000	600,000	0
雑収入	[ 1,000]	[ 1,000]	[ 0]
受取利息	1,000	1,000	0
事業活動収入計	59,957,800	44,769,781	15,188,019
<b>2. 事業活動支出</b>			
事業費	[ 38,735,951]	[ 27,577,781]	[ 11,158,170]
コートフレッツ	2,518,260	2,238,660	279,600
パンフレット	366,300	357,700	8,600
参加賞	454,200	471,200	△ 17,000
トロフィ・メダル	301,028	309,588	△ 8,560
保険代	26,372	26,372	0
交通費	405,800	587,100	△ 181,300
宿泊費	42,000	107,000	△ 65,000
郵送費	210,000	182,000	28,000
雑費	607,321	585,161	22,160
諸謝金	2,362,000	2,472,100	△ 110,100
旅費	2,985,409	1,069,100	1,916,309
渡航費	2,360,260	2,261,840	98,420
滞在費	2,762,800	2,275,842	486,958
借料及び損料	2,556,396	1,297,051	1,259,345
消耗品費	556,162	423,641	132,521
スポーツ用品費	379,704	295,245	84,459
備品費	250,000	250,000	0
印刷製本費	5,056,644	2,944,111	2,112,533
通信運搬費	133,485	113,858	19,627
雑役務費	9,188,560	7,244,359	1,944,201
保険料	32,000	55,310	△ 23,310
その他	26,343	15,543	10,800
対象外経費	3,939,237	795,000	3,144,237
給付金支出	900,000	900,000	0

科 目	予算額	前年度予算額	増 減
雑 支 出	315,670	300,000	15,670
管 理 費	[ 19,821,849]	[ 16,792,000]	[ 3,029,849]
給 与 費	10,202,000	10,202,000	0
旅 交 通 費	900,000	800,000	100,000
通 信 ・ 運 搬 費	764,000	330,000	434,000
会 議 費	38,000	10,000	28,000
消 耗 什 器 備 品 費	500,000	500,000	0
印 刷 製 本 費	417,849	50,000	367,849
光 熱 水 料 費	250,000	250,000	0
賃 借 料	2,400,000	1,500,000	900,000
社 会 保 険 料	2,000,000	2,000,000	0
負 担 金 支 出	700,000	500,000	200,000
公 認 会 計 士 他 費 用	150,000	150,000	0
公 益 法 人 関 連 費 用	250,000	250,000	0
登 記 費 用	150,000	150,000	0
雑 費	1,100,000	100,000	1,000,000
事業活動支出計	58,557,800	44,369,781	14,188,019
事業活動収支差額	1,400,000	400,000	1,000,000
II 投資活動収支の部			
1. 投資活動収入			
投資活動収入計	0	0	0
2. 投資活動支出			
特 定 預 金 支 出	[ 1,400,000]	[ 400,000]	[ 1,000,000]
退 職 給 付 引 当 預 金 支 出	100,000	100,000	0
大 会 開 催 引 当 預 金 支 出	100,000	100,000	0
ト レ セ ン 建 設 引 当 預 金 支 出	200,000	200,000	0
ス ポ ー ツ ラ ボ 引 当 預 金 支 出	1,000,000	0	1,000,000
投資活動支出計	1,400,000	400,000	1,000,000
投資活動収支差額	△ 1,400,000	△ 400,000	△ 1,000,000
III 財務活動収支の部			
1. 財務活動収入			
財務活動収入計	0	0	0
2. 財務活動支出			
財務活動支出計	0	0	0
財務活動収支差額	0	0	0
当期収支差額	0	0	0
前期繰越収支差額	0	0	0
次期繰越収支差額	0	0	0

収支予算書内訳表(収支)

平成31年 4月 1日から平成32年 3月31日まで

(単位:円)

科 目	合 計		
	公益目的事業	収益事業	法人会計
I 事業活動収支の部			
1. 事業活動収入			
基本財産運用収入	[ 0 ]	[ 0 ]	[ 10,000 ]
基本財産利息収入	0	0	10,000
会費収入	[ 11,289,625 ]	[ 0 ]	[ 11,289,625 ]
正会員会費収入	178,200	0	178,200
賛助会員個人会費収入	5,381,425	0	5,381,425
賛助会員団体会費収入	1,825,000	0	1,825,000
特別会員費収入	2,250,000	0	2,250,000
加盟金	305,000	0	305,000
公認料	1,350,000	0	1,350,000
事業収入	[ 17,531,550 ]	[ 0 ]	[ 0 ]
補助金・委託金等収入	5,159,000	0	0
協賛金収入	3,022,400	0	0
入場料収入	100,000	0	0
参加料収入	8,318,850	0	0
その他の収入	431,300	0	0
雑収入	500,000	0	0
補助金等収入	[ 19,236,000 ]	[ 0 ]	[ 0 ]
民間補助金収入	6,354,000	0	0
国庫等助成金	12,882,000	0	0
寄付金収入	[ 600,000 ]	[ 0 ]	[ 0 ]
募金収入	600,000	0	0
雑収入	[ 0 ]	[ 0 ]	[ 1,000 ]
受取利息	0	0	1,000
事業活動収入計	48,657,175	0	11,300,625
2. 事業活動支出			
事業費	[ 38,735,951 ]	[ 0 ]	[ 0 ]
コート・フット	2,518,260	0	0
バンフレット	366,300	0	0
参加賞	454,200	0	0
トロフィー・メダル	301,028	0	0
保険代	26,372	0	0
交通費	405,800	0	0
宿泊費	42,000	0	0
郵送費	210,000	0	0
雑費	607,321	0	0
諸謝金	2,362,000	0	0
旅費	2,985,409	0	0
渡航費	2,360,260	0	0
滞在費	2,762,800	0	0
借料及び損料	2,556,396	0	0
消耗品費	556,162	0	0
スポーツ用品費	379,704	0	0
備品費	250,000	0	0
印刷製本費	5,056,644	0	0
通信運搬費	133,485	0	0
雑役務費	9,188,560	0	0
保険料	32,000	0	0
その他	26,343	0	0
対象外経費	3,939,237	0	0
給付金支出	900,000	0	0
雑支出	315,670	0	0
管理費	[ 14,024,880 ]	[ 0 ]	[ 5,796,969 ]
給与	8,161,600	0	2,040,400
旅費	720,000	0	180,000
通信運搬費	664,000	0	100,000
会議費	25,000	0	13,000
消耗什器備品費	400,000	0	100,000
印刷製本費	334,280	0	83,569
光熱水料	200,000	0	50,000
賃借料	1,920,000	0	480,000

科 目				合 計
	公益目的事業	収益事業	法人会計	
社 会 保 険 料	1,600,000	0	400,000	2,000,000
負 担 金 支 出	0	0	700,000	700,000
公 認 会 計 士 他 費 用	0	0	150,000	150,000
公 益 法 人 関 連 費 用	0	0	250,000	250,000
登 記 費 用	0	0	150,000	150,000
雑 費	0	0	1,100,000	1,100,000
事業活動支出計	52,760,831	0	5,796,969	58,557,800
事業活動収支差額	△ 4,103,656	0	5,503,656	1,400,000
<b>II 投資活動収支の部</b>				
1. 投資活動収入				
投資活動収入計	0	0	0	0
2. 投資活動支出				
特 定 預 金 支 出	[ 1,300,000]	[ 0]	[ 100,000]	[ 1,400,000]
退 職 給 付 引 当 預 金 支 出	0	0	100,000	100,000
大 会 開 催 引 当 預 金 支 出	100,000	0	0	100,000
ト レ セ ン 建 設 引 当 預 金 支 出	200,000	0	0	200,000
ス ポ ー ツ ラ ボ 引 当 預 金 支 出	1,000,000	0	0	1,000,000
投資活動支出計	1,300,000	0	100,000	1,400,000
投資活動収支差額	△ 1,300,000	0	△ 100,000	△ 1,400,000
<b>III 財務活動収支の部</b>				
1. 財務活動収入				
財務活動収入計	0	0	0	0
2. 財務活動支出				
財務活動支出計	0	0	0	0
財務活動収支差額	0	0	0	0
当期収支差額	△ 5,403,656	0	5,403,656	0
前期繰越収支差額	0	0	0	0
次期繰越収支差額	△ 5,403,656	0	5,403,656	0

2019年度公益社団法人日本スカッシュ協会役員

役職名	再新任	氏名	職業・委員会・等	任期	常勤・非常勤
理事(会長)	再任	笠原 一也	元国立スポーツ科学センター長 NPO法人 日本オリンピック・アカデミー/会長	平成30年6月定時総会日～ 2020年定時総会終結日	非常勤
理事(副会長)	再任	川原 貴	元国立スポーツ科学センター長	平成30年6月定時総会日～ 2020年定時総会終結日	非常勤
理事(常務理事)	再任	潮木 仁	選手強化委員長 (株)スポーツステーション・ジン/ 代表取締役社長	平成30年6月定時総会日～ 2020年定時総会終結日	非常勤
理事(常務理事)	再任	大根田 芳浩	競技委員長 大根田電機(株)/代表取締役社長	平成30年6月定時総会日～ 2020年定時総会終結日	非常勤
理事(常務理事)	再任	小幡 博	地区対策委員長/北海道支部長 セントラルウェルネスクラブ札幌勤務/インストラクター	平成30年6月定時総会日～ 2020年定時総会終結日	非常勤
理事(常務理事)	再任	神谷 典子	総務委員長/国際部長 (公社)日本スカッシュ協会/事務局長	平成30年6月定時総会日～ 2020年定時総会終結日	常勤
理事(常務理事)	再任	日向 孝知	規則公認委員長/広報委員長 (株)システナ/ソリューションデザイン本部	平成30年6月定時総会日～ 2020年定時総会終結日	非常勤
理事(常務理事)	再任	宮城島真知子	普及渉外委員長 (株)Be-Win/代表取締役社長	平成30年6月定時総会日～ 2020年定時総会終結日	非常勤
理事	再任	渡邊 祥広	T&Wカンパニー(株)/代表取締役	平成30年6月定時総会日～ 2020年定時総会終結日	非常勤
理事	再任	三枝 佳紀	セントラルスポーツ(株)/レジャー事業部長	平成30年6月定時総会日～ 2020年定時総会終結日	非常勤
理事	再任	師岡 文男	スポーツ庁参与/スポーツアコード元理事/国際ワールドゲームズ協会元理事/上智大学名誉教授	平成30年6月定時総会日～ 2020年定時総会終結日	非常勤
理事	再任	小見山 幸治	前参議院議員 (株)アウトソーシング クエスト/代表取締役 (一財)国際人材交流支援機構/理事長	平成30年6月定時総会日～ 2020年定時総会終結日	非常勤
理事	再任	柳谷 登志雄	順天堂大学 スポーツ健康学科准教授 日本陸上連盟JOC強化スタッフ	平成30年6月定時総会日～ 2020年定時総会終結日	非常勤
理事	再任	水嶋 章陽	九州医療スポーツ専門学校理事	平成30年6月定時総会日～ 2020年定時総会終結日	非常勤
理事	再任	出口 陽万	元関西支部支部長 AIG損害保険株式会社 勤務	平成30年6月定時総会日～ 2020年定時総会終結日	非常勤

監事	再任	友清 敏和	元持田シーメンスメディカルシステム(株)/ 取締役	平成30年6月定時総会日～ 2022年定時総会終結日	非常勤
監事	再任	山岸 和彦	あさひ法律事務所/弁護士	平成30年6月定時総会日～ 2022年定時総会終結日	非常勤

現在、役員に報酬・退職金等は支給しておらず、今後も支給する予定はない。

2019年度公益社団法人日本スカッシュ協会 名誉総裁・名誉会長・顧問

役 職	再新任	氏 名	職業・地区等
名誉総裁		高円宮承子女王殿下	
名誉会長	再任	猪谷 千春	国際オリンピック委員会名誉委員/ NPO法人日本オリンピックアカデミー
顧問	再任	藤ヶ崎 訥美	元(株)三声/代表取締役社長
顧問	再任	臼井 日出男	元衆議院議員/元防衛庁長官・元法務大臣
顧問	再任	岩崎 晃	元(株)日本テレビワーク24専務取締役
顧問	再任	齋藤 敏一	(株)ルネサンス 取締役会長
顧問	再任	赤木 恭平	(公財)日本オリンピック委員会/名誉委員 NPO法人 日本ワールドゲームズ協会/会長
顧問	再任	鈴木 恒夫	元衆議院議員/元文部科学大臣
顧問	再任	今村 正史	元コーンズドッドウェル(株)監査役
顧問	再任	グレゴリー・クラーク	多摩大学名誉学長
顧問	再任	山東 昭子	参議院議員
顧問	再任	鈴木けいすけ	衆議院議員

2019年度公益社団法人日本スカッシュ協会 運営委員

役 職	再新任	氏 名	職業・地区等
運営委員	再任	柴田 亮介	東北支部
運営委員	再任	土田 博史	千葉県支部
運営委員	再任	西尾 竹英	中部支部
運営委員	再任	足立 美由紀	関西支部長
運営委員	再任	芦谷 誠治	中国四国支部
運営委員	再任	東 義智	九州支部
運営委員	再任	丹莖 倫	会長推薦
運営委員	新任	五百住 守	全日本学生連盟委員長
運営委員	再任	梶田 幸子	会長推薦
運営委員	新任	河原 健一	会長推薦
運営委員	新任	齋藤 智一	会長推薦

## 2019年度正会員名簿

2019年度(35名)

氏名
小幡 博
鈴木 康之
柴田 亮介
熊田 康宏
大根田 芳浩
笠原 一也
潮木 仁
濱野 昭彦
日向 孝知
古川 泰久
神谷 典子
五百住 守
梶田 幸子
土田 博史
丹埜 倫
宮城島 眞知子
高橋 徹
町田 信行

氏名
岡田 真弥
吉田 隆二
西尾 竹英
松岡 克夫
石川 由華子
足立 美由紀
丹羽 拓史
高木 あきみ
松下 泰和
杉本 和子
二瓶 雅美
武本 清孝
芦谷 誠治
東 義智
河原 健一
齋藤 智一
川原 貴

## 2019年度委員会・大会担当者

### <委員会>

#### 1) 規則公認委員会 委員長/日向

<公認> 委員長/日向 <コンプライアンス> 担当/潮木、大根田、小幡、神谷

#### 2) 選手強化委員会 委員長/潮木 副委員長/佐野 委員/山崎 (シニア委員長)、佐野 (ジュニア委員長)、小川、松本、神谷 (情報戦略担当)、横田

<ナショナル強化プロジェクト> ナショナルコーチ/佐野、アシスタントコーチ/山崎、小川、松本 強化スタッフ/土田、西村、菊池、神子、吉留、郡司 (颯)

サポートスタッフ/郡司 (孝一)、芦谷

<アスリート委員会> 鈴木

<コーチ委員会> 委員長/佐野 副委員長/土田 委員/足立、潮木、山崎

<学連> 委員長/五百住 副委員長/山口、磯部

<アンチドーピング委員会> 委員長/酒井 委員/川原、佐野、浅野 (雅)、神谷、丹野

#### 3) 競技委員会 委員長/大根田 副委員長/潮木、河原

<大会管理> 委員長/潮木 委員/河原

<レフリー> 委員長/大根田 委員/潮木、土田、足立、佐野、山崎、小幡、(日向)、柴田、千葉、小川、渡邊、小島、東、大瀧、古川、ミラー、浅野 (裕)、月岡

<マスターズ> 委員長/齋藤 委員/大根田

#### 4) 総務委員会 委員長/神谷 委員/事務局

<地区対策> 委員長/小幡 委員/大根田、全国地区支部委員

<広報> 委員長/日向 委員/神谷、梶田、宮城島、齋藤、吉留

<財務> 委員長/友清 委員/梶田、神谷

<国際> 委員長/神谷

#### 5) 普及渉外委員会 委員長/宮城島 副委員長/神谷、梶田

委員/潮木、日向、大根田、小幡、

<環境対策> JSAエコプロジェクト 委員長/宮城島 委員/日向、事務局

<エアースカッシュ> 委員長/宮城島

委員/大根田、日向、青木、青柳、山崎、全国地区支部委員、事務局

### <大会・イベント>

A) 全日本アンダー23 実行委員長/潮木 副実行委員長/滝田 (学連) 委員/丹野

B) 全日本ジュニア 実行委員長/小川 副実行委員長/土田、滝田(学連)、島田  
委員/足立、宮城島、佐野、渡邊、ジュニア委員、丹野

C) マスターズカーニバル 実行委員長/齋藤 委員/実行委員会

D) 全日本選手権 実行委員長/宮城島 副委員長/大根田、小幡、  
実行委員/潮木、日向、神谷、梶田、河原、野々口、丹野、他

E) ジャパンジュニアオープン 実行委員長/佐野 副実行委員長/小川、滝田 (学連)、島田、  
委員/土田、宮城島、神谷、丹野、ジュニア委員

F) スカッシュデー・スカッシュウィーク 実行委員長/宮城島 委員/全国地区支部委員

G) エアースカッシュ 実行委員長/宮城島 委員/委員会委員、全国地区支部委員

H) 東アジア 実行委員長/大根田 副委員長/潮木、ケニー 委員/神谷

I) 2020 スポーツ・ラボ 実行委員長/宮城島

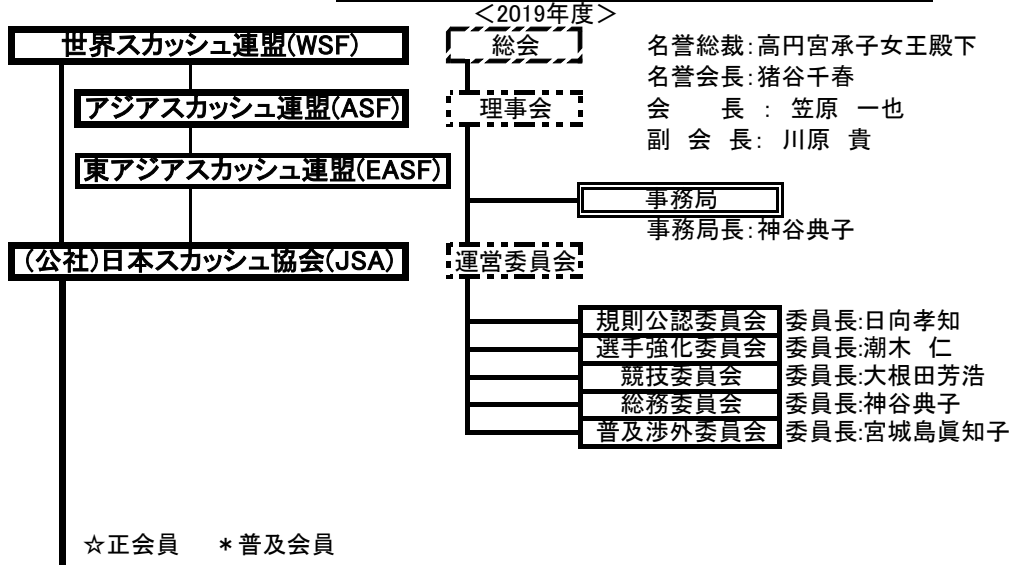
J) WMG2021 関西 日向、出口

### <事務局>

事務局長/神谷 事務局員/梶田、丹野、檜阪、浜地

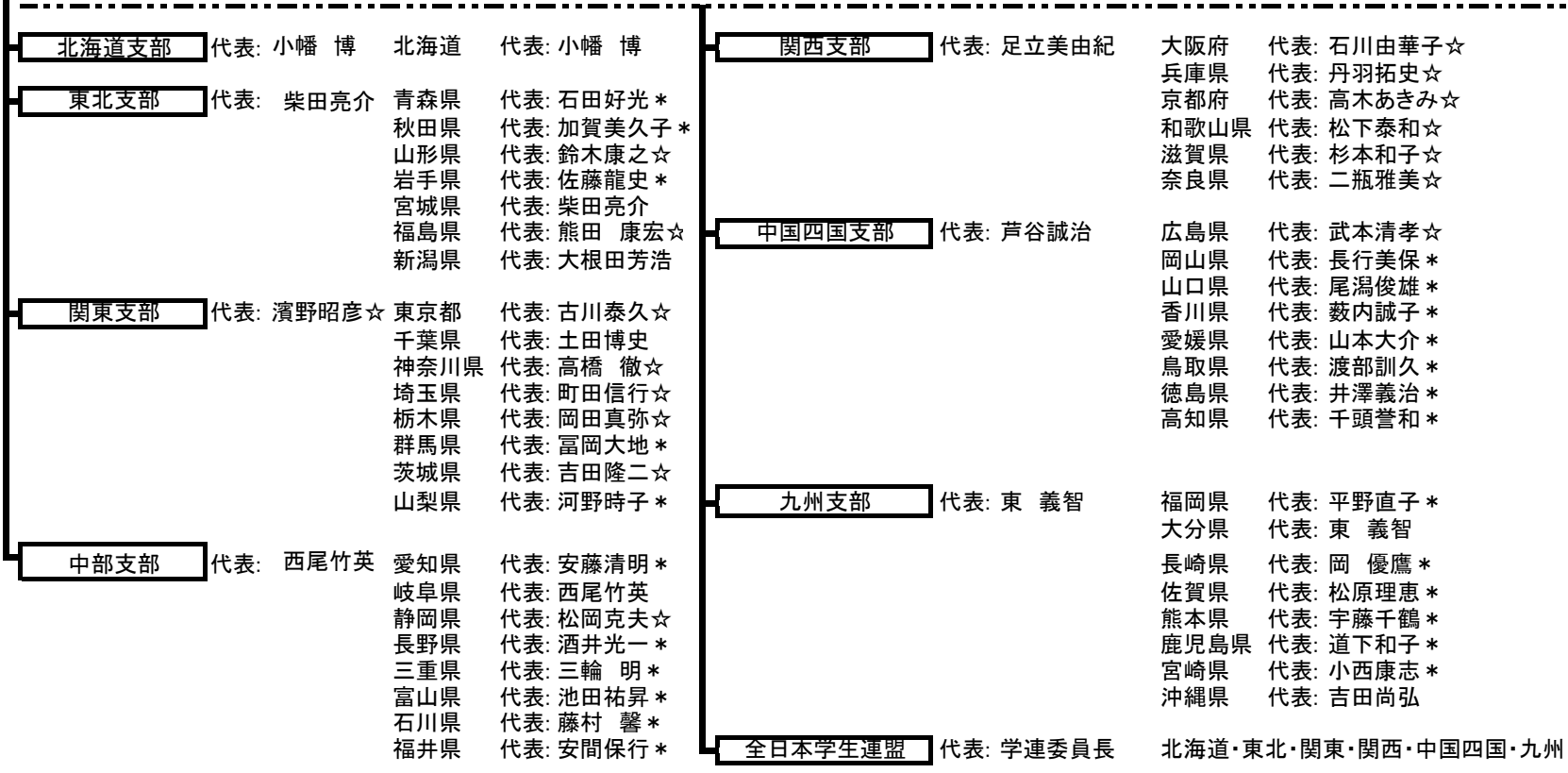
# 公益社団法人日本スカッシュ協会組織図

TEL:03-5256-0024      http://squash.or.jp/  
 FAX:03-5256-0025      E-mail:squash@japan.email.ne.jp



- 代表理事: 笠原一也☆      顧問(アドバイザー)
- 副会長: 川原貴☆      臼井日出男      赤木恭平
- 常務理事: 潮木仁☆      岩崎晃      鈴木恒夫
- 大根田芳浩☆      斎藤敏一      藤ヶ崎訥美
- 小幡博☆      今村正史      グレゴリー・クラーク
- 神谷典子☆      山東昭子      鈴木けいすけ
- 宮城島真知子☆      運営委員:
- 日向孝知☆      足立美由紀☆
- 理事: 三枝佳紀      東義智☆
- 師岡文雄      柴田亮介☆
- 渡邊祥広      芦谷誠治☆
- 小見山幸治      西尾竹英☆
- 柳谷登志雄      土田博史☆
- 水嶋章陽      丹埜倫☆
- 出口陽万      梶田幸子☆
- 監事: 友清敏和      河原健一☆
- 山岸和彦      齋藤智一☆
- 五百住守☆

☆正会員      \*普及会員



## 「国と特に密接な関係がある」公益法人への該当性について（公表）

2019年6月30日

公益社団法人日本スカッシュ協会

当法人は、国家公務員法等の規定に関し、国家公務員であった者が法人の役員として再就職する場合に、事前に政府に届出をおこなうことが必要な「国と特に密接な関係がある法人」に該当しませんので、その旨公表いたします。

[本件連絡先]

電 話

03-5256-0024

FAX

03-5256-0025

電子メール

[squash@japan.email.ne.jp](mailto:squash@japan.email.ne.jp)

### （参考）国家公務員法等の規定

- ・ 国家公務員法（昭和 22 年法律第 120 号）第 106 条の 24 第 1 項第 4 号
- ・ 独立行政法人通則法（平成 11 年法律第 103 号）第 54 条の 2 第 1 項において準用する国家公務員法第 106 条の 24 第 1 項第 4 号
- ・ 職員の退職管理に関する政令（平成 20 年政令第 389 号）第 32 条
- ・ 特定独立行政法人の役員の退職管理に関する政令（平成 20 年政令第 390 号）第 18 条
- ・ 職員の退職管理に関する内閣官房令（平成 20 年内閣府令第 83 号）第 9 条
- ・ 特定独立行政法人の役員の退職管理に関する内閣官房令(平成 20 年内閣府令第 84 号)第 8 条